

第4節 下市天神ノ峯遺跡の調査

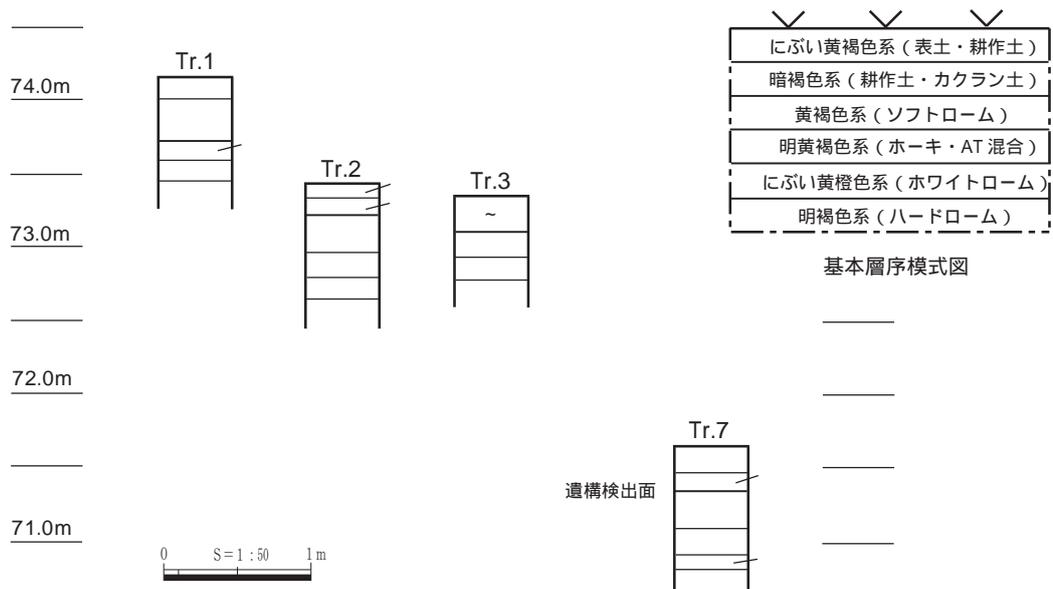
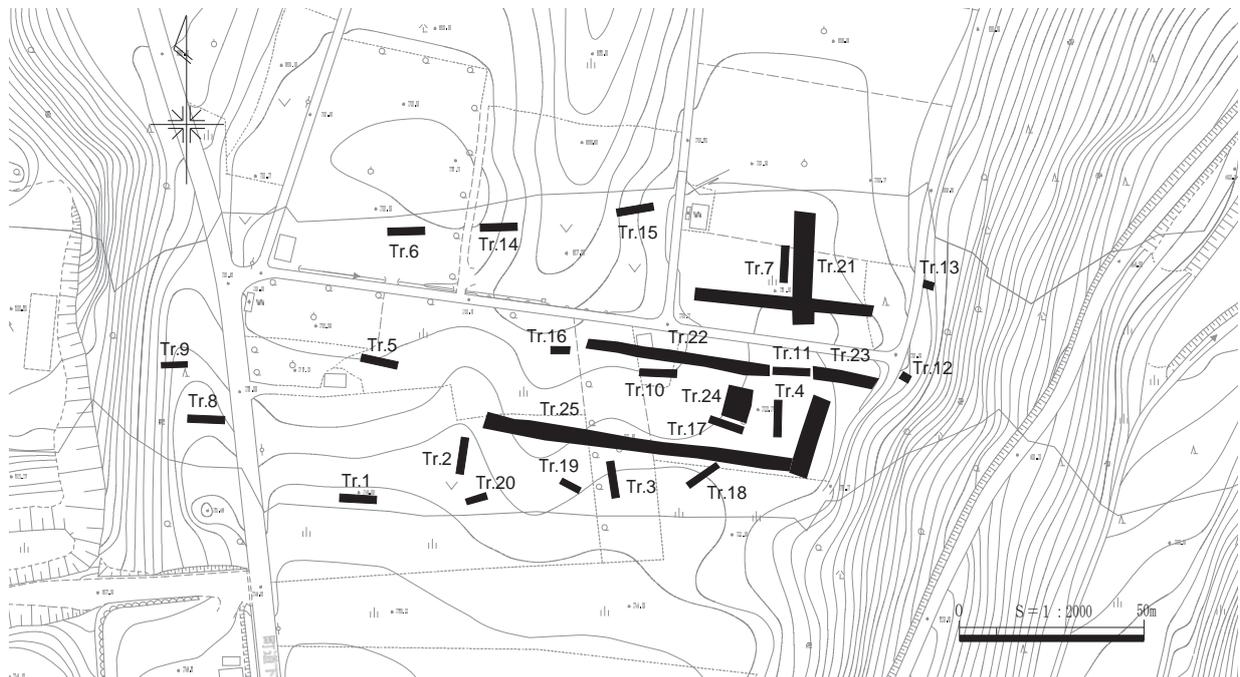
調査地点 大山町下市835 - 7 外

調査期間 平成21年 8月11日～平成21年10月16日

調査面積 1418.3m<sup>2</sup>

調査概要(第50図、表11、PL.15～18)

下市天神ノ峯遺跡は、宮川と下市川に挟まれた丘陵地に位置しており、西には下市築地ノ峯第2遺跡が、東には殿河内ウルミ谷遺跡が所在している。調査地は標高約69～75mのなだらかな丘陵上に位置している。地形を細かく見ると、調査地中央には谷があり、これを境に東西に2つの尾根が北に



第50図 トレンチ位置図および基本層序模式図

第5章 確認調査の概要

向かって延びている。この谷は、調査地南端付近が谷頭となっていて、北に向かって徐々に深くなる。調査地の地目は梨畑で、梨畑造成に伴うと考えられる大規模な造成が行われていた。

開発予定地内に20本のトレンチを設定し、人力で掘削を行ったところ、Tr.17で落とし穴と考えられる土坑1基を確認した。約340㎡の掘削に対して検出した遺構が土坑1基のみであったため、ほかに遺構が存在するかどうか、より広い面積を掘削して確認する必要があると判断した。造成や梨栽培による攪乱が著しく、遺物包含層が現存していないことを確認できていたので、掘削には重機を用いることにした。重機で約1000㎡の掘削を行った結果、ほかに新たな遺構を検出することができなかった。そのため、Tr.17の土坑以外に遺構が現存する可能性が極めて低いと判断し、Tr.17のみを下市天神ノ峯遺跡の本調査対象地とした。Tr.17の本調査は平成21年度に確認調査と並行して行っている。なお、本調査の結果については第4章を参照されたい。

調査地は火山砕屑物堆積層が基盤となっており、その上に表土・耕作土が堆積している。これらの堆積は大半のトレンチで共通する土層として把握できており、6層の基本層序として整理できた。

層は表土、耕作土および攪乱土、層以下が火山砕屑物堆積層である。層がいわゆるソフトローム層、層が始良丹沢火山灰(AT)と上または下のホーキ火山砂の混合層、層がホワイトロームと呼ばれるにぶい黄橙色の粘質土層、層がハードロームと呼ばれる明褐色の硬質の粘質土層である。

表11 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模(m)	面積(㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構 面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.1	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	縄文土器	縄文時代		
Tr.2	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代		
Tr.3	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.4	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代		
Tr.5	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代		
Tr.6	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代		
Tr.7	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代		
Tr.8	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.9	1.5×7	10.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.10	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器・陶磁器	弥生時代・近世		
Tr.11	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器・陶磁器	弥生時代・近世		
Tr.12	2×3	6	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器・須恵器	弥生時代・古墳時代 ～古代		
Tr.13	2×3	6	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代		
Tr.14	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.15	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.16	2×5	10	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代		
Tr.17	2×10	20	SK 1	-	-	-	-	-	-	-	-	1面	3層(層)上面
Tr.18	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.19	2×6	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.20	2×6	12	-	-	-	-	-	-	1層(層)	-	-		
Tr.21	-	326.42	-	-	-	-	-	-	1層(層)	須恵器	古代		
Tr.22	-	166.99	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.23	-	63.52	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.24	-	69.24	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Tr.25	-	455.63	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
面積合計		1418.3											

なお、Tr.17の遺構検出面は 層上面である。

以下、いくつかのトレンチについて報告を行う。その他のトレンチの調査結果については表11を参照されたい。

Tr.4(第51・52図、表12、PL.15・18)

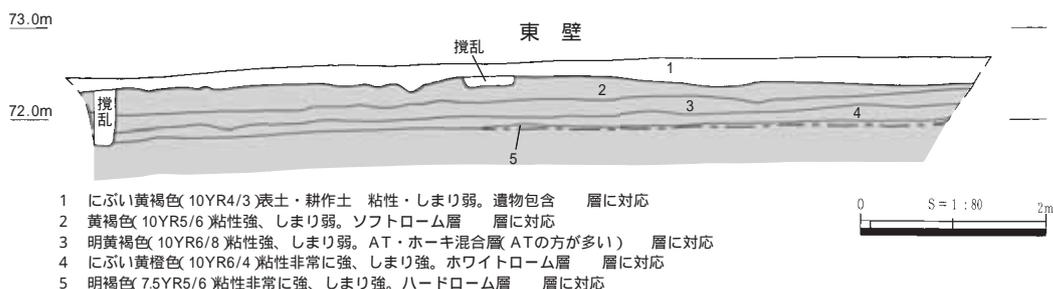
調査地東部の東側尾根頂部に、尾根に並行して設定した。本トレンチでは遺構、遺物包含層とも確認できていない。1層が表土・耕作土、2層以下が火山碎屑物堆積で、2層が基本層序 層、3層が基本層序 層、4層が基本層序 層に、5層が基本層序 層に、それぞれ対応する。

本トレンチでは、攪乱土中から弥生土器片が2点出土しており、そのうち1点を図示した。1は弥生時代後期の壺である。

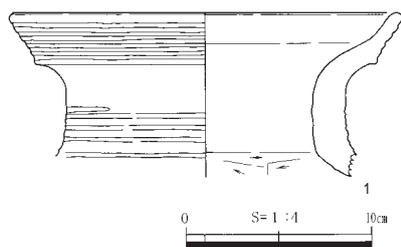
Tr.5(第53・54図、表12、PL.16・18)

調査地西部の西側尾根頂部に、尾根に直交して設定した。本トレンチでは遺構、遺物包含層とも確認できていない。1・2層が表土・耕作土、3層以下が火山碎屑物堆積で、3層が基本層序 層、4層が基本層序 層、5層が基本層序 層に、6層が基本層序 層に、それぞれ対応する。

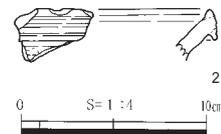
本トレンチでは、耕作土中から弥生土器片が1点出土している。2は弥生時代中期後葉の壺または



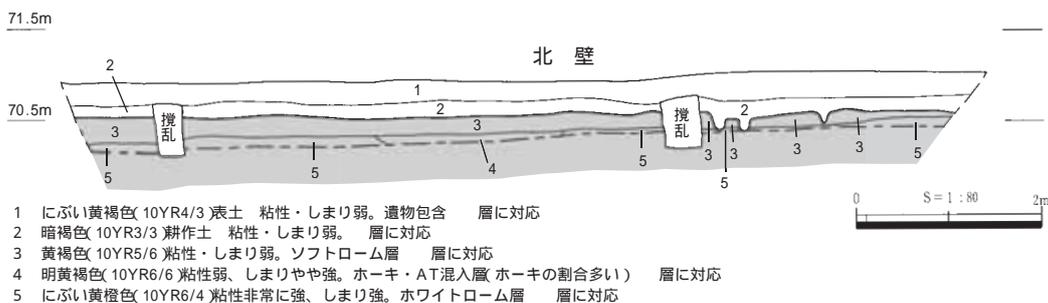
第51図 Tr.4



第52図 Tr.4 出土遺物



第53図 Tr.5 出土遺物



第54図 Tr.5

## 第5章 確認調査の概要

甕の口縁部片である。

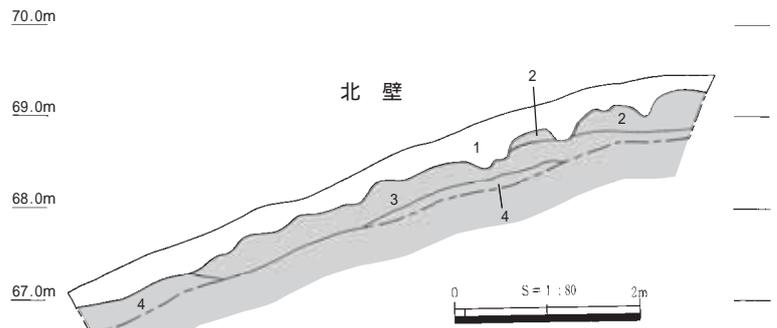
### Tr. 9( 第55図、PL.16 )

調査地西端部の丘陵肩部に設定した。本トレンチでは遺構、遺物包含層とも確認できていない。1層が表土、2層以下が火山碎屑物堆積で、2層が基本層序 と 層の混合土層、3層が基本層序 層に、4層が基本層序 層に、それぞれ対応する。本トレンチでは遺物は全く確認していない。

### Tr.10( 第56・57図、表12、PL.16・18 )

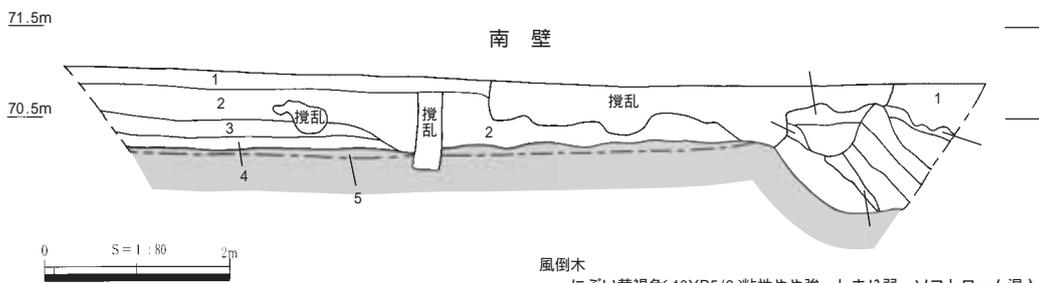
調査地中央部の谷部から西側尾根斜面にかけて設定した。本トレンチでは遺構、遺物包含層は確認していないが、風倒木痕を1ヶ所検出した。1・2層が表土・耕作土、3・4層が暗褐色または黒褐色の谷部堆積土で、5層以下が火山碎屑物堆積である。風倒木痕は攪乱によって上面が掘削されているが、おそらく谷部堆積土を切る形で形成されているものと思われる。

本トレンチでは、耕作土中から近世陶磁器片と弥生土器小片が出土している。そのうち1点を図示した。3は弥生時代後期の甕の口縁部片である。



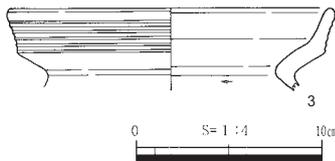
- 1 にぶい黄褐色(10YR4/3)表土 粘性・しまり弱。層に対応
- 2 明褐色(7.5YR5/8)粘性・しまり強。ローム・AT混合層 層に対応
- 3 にぶい黄褐色(10YR6/4)粘性非常に強、しまり強。ホワイトローム層 層に対応
- 4 明褐色(7.5YR5/6)粘性非常に強、しまり強。ハードローム層 層に対応

第55図 Tr. 9

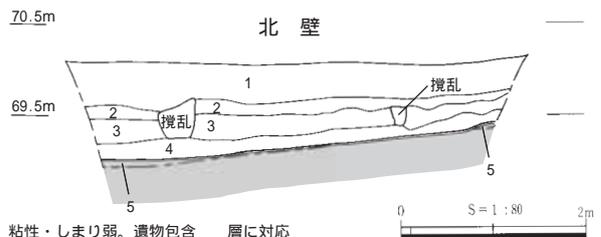


- 1 にぶい黄褐色(10YR4/3)表土 粘性・しまり弱。層に対応
- 2 暗褐色(10YR3/3)耕作土 粘性・しまり弱。遺物包含 層に対応
- 3 暗褐色(10YR3/4)粘性やや強、しまり弱。
- 4 黒褐色(10YR2/3)粘性やや強、しまりやや弱。
- 5 黄褐色(10YR5/6)粘性強、しまりやや弱。ソフトローム層 層に対応

第56図 Tr.10



第57図 Tr.10出土遺物



- 1 にぶい黄褐色(10YR4/3)表土 粘性・しまり弱。遺物包含 層に対応
- 2 暗褐色(10YR3/3)耕作土 粘性・しまり弱 層に対応
- 3 暗褐色(10YR3/4)粘性やや強、しまり弱
- 4 黒褐色(10YR2/3)粘性やや強、しまりやや弱
- 5 黄褐色(10YR5/6)粘性強、しまりやや弱。ソフトローム層 層に対応

第58図 Tr.16

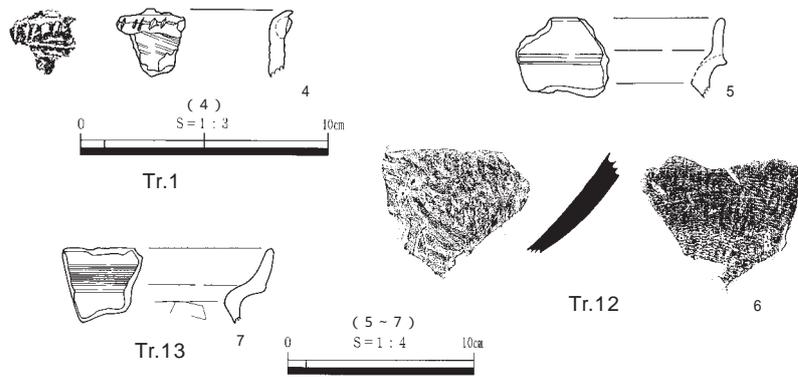
Tr.16( 第58図、PL.17)

調査地中央部の谷部に設定した。本トレンチでは遺構、遺物包含層は確認していない。トレンチ内の堆積はTr.10と共通しており、1・2層が表土・耕作土、3・4層が谷部堆積土で、5層以下が火山碎屑物堆積である。本トレンチでは耕作土中から弥生土器小片が数点出土しているが、図化可能なものはなかった。

その他のトレンチ出土遺物( 第59図、表12、PL.18)

その他のトレンチの耕作土からも、量は少ないものの、縄文時代から近世までの遺物が出土している。主体となるのは弥生時代中期～後期の土器で、その他の時期の遺物は非常に少ない。4はTr.1出土の突帯文土器片である。5・6はTr.12出土遺物で、5は弥生時代後期の甕口縁部片、6は古墳時代または古代の須恵器甕の体部片である。7はTr.13出土の弥生時代後期の甕口縁部片である。

弥生土器がある程度量的にまとまっていることから、弥生時代の遺跡が調査地内にかつて存在していたか、近隣に存在している可能性がある。



第59図 その他のトレンチ出土遺物

表12 出土土器観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第52図	No.5	Tr. 4 攪乱土	弥生土器 壺	口縁部 1/4以下	口径： 20.8 器高： 8.8	外面：ナデ。口縁部5条の平行沈線、頸部4～5条の凹線 内面：口頸部ナデ。胴部ヘラケズリ	密	良好	内外面：橙色	
2	第53図	No.6	Tr. 5 耕作土	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8以下	器高： 2.9	外面：ナデ 内面：ナデ～ヘラケズリ	密(0.5～2mm程度の石英・長石を多く含む)	良好	内外面：にぶい黄橙色	
3	第57図	No.10	Tr.10 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/4以下	口径： 17.2 器高： 4.3	外面：ナデ。口縁部5条の平行沈線 内面：口縁部ナデ。胴部ヘラケズリ	密	良好	内外面：明黄褐色	
4	第59図	No.1	Tr. 1 耕作土	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高： 3.7	外面：条痕。貼付突帯。突帯上キザミ 内面：ナデ	密	良好	内外面：橙色	
5	第59図	No.12	Tr.12 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高： 4.2	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ。胴部ヘラケズリ	密(0.5～2mm程度の石英・長石を多く含む)	良好	内外面：にぶい黄橙色	外面の所々にスス附着
6	第59図	No.11	Tr.12 耕作土	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高： 7.3	外面：擬格子目タタキ後一部カキ目 内面：同心円文当て具	密	良好	外面：にぶい褐色 内面：灰色	
7	第59図	No.14	Tr.13 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/8以下	器高： 4.0	外面：ナデ。口縁部6条程の平行沈線 内面：口縁部ナデ。胴部ヘラケズリ	密(0.5～2mm程度の石英・長石を多く含む)	良好	内外面：にぶい橙色	

## 第5章 確認調査の概要

### 第5節 殿河内ウルミ谷遺跡の調査

調査地点 大山町殿河内742 - 2 外

調査期間 平成21年10月6日～平成21年11月27日

調査面積 66.5m<sup>2</sup>

調査概要(第60図、表13、PL.19～21)

殿河内ウルミ谷遺跡は、大山から北に派生する丘陵の北西斜面および下市川西岸沖積地から入り込む谷に位置する。谷では、下市川の支流である谷川(ウルミ谷川)が北東方向に流れる。遺跡の西側は、下市天神ノ峯遺跡が位置する台地状の丘陵が南北方向に延びており、東側は殿河内上ノ段大ブケ遺跡が位置する下市川西岸沖積地となる。現地表面での標高は、丘陵斜面の最も高い地点で約47m、谷部で約37mである。地目は、丘陵斜面が森林であり、ウルミ谷川北岸は水田である。

調査は、開発予定地内に5本のトレンチを設定して行った。すなわち、丘陵斜面にTr.1～3を設定し、ウルミ谷川北岸では水田利用の際の造成地上にTr.4を設定した。また、丘陵斜面の谷川に近い位置にTr.5を設定した。調査の結果、Tr.1を除くすべてのトレンチにおいて遺物包含層が確認でき、Tr.2では、製炭土坑や段状遺構を検出した。

調査地内は、トレンチごとに堆積状況が大きく異なるため、基本層序は設定していない。丘陵部のTr.1～3の基盤層が火山碎屑物堆積層であるのに対して、谷川兩岸のTr.4とTr.5の基盤層は河川



第60図 トレンチ位置図

表13 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模 (m)	面積 (㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr. 1	1.5 × 10	15	-	-	-	-	-	-	1層	須恵器・土師器	-	-	-
Tr. 2	2 × 10 + 1 × 3	23	SK 1	須恵器・土師器	古代	2層	土師器	古代	1層	土師器	-	3面	2層・4層・7層 上面
			SS 1	-	古代	4層 (斜面・谷堆積土)	土師器	古代					
			SS 2	-	古代	5層 (谷堆積土)	土師器	古代					
Tr. 3	1 × 7	7	-	-	-	-	-	-	1層	須恵器・土師器	-	-	-
									2層	土師器	古代?		
Tr. 4	2 × 10	20	-	-	-	8層	黒曜石剥片	-	1層	瓦・須恵器・土師器	-	-	-
									2層	染付・須恵器・土師器	古代・近世		
									3層	青磁・須恵器・土師器	古代・中世		
						9層	須恵器・土師器	古墳・古代	4層	青磁・須恵器・土師器	古代・中世		
									5層	須恵器・土師器	古代・中世		
									7層	須恵器・土師器	古代		
									-	-	-		
Tr. 5	1 × 1.5	1.5	-	-	-	2層	土師器	-	-	-	-	-	
						3層	土師器	古代?					
面積合計		66.5											

堆積である。そして、Tr. 4の基盤層である10層と、Tr. 5の基盤層である6層と7層とがほぼ対応する。

遺物は、各トレンチから古代の土師器と須恵器が中心に出土しており、とくにTr. 4では古墳時代～古代の須恵器、古代の赤彩を含む土師器が多量に出土した。

調査の結果、丘陵斜面では、Tr. 2で古代の製炭土坑や段状遺構が検出されたことから、丘陵斜面部は遺跡であると判断した。また、ウルミ谷川北岸は造成地であるが、Tr. 4で古墳時代～古代に位置づけられる多量の土師器や須恵器が出土したことから、その周辺に遺跡が存在する可能性も考えられた。

以下、いくつかのトレンチについて報告をおこなう。なお、各トレンチの概要については表13を参照されたい。

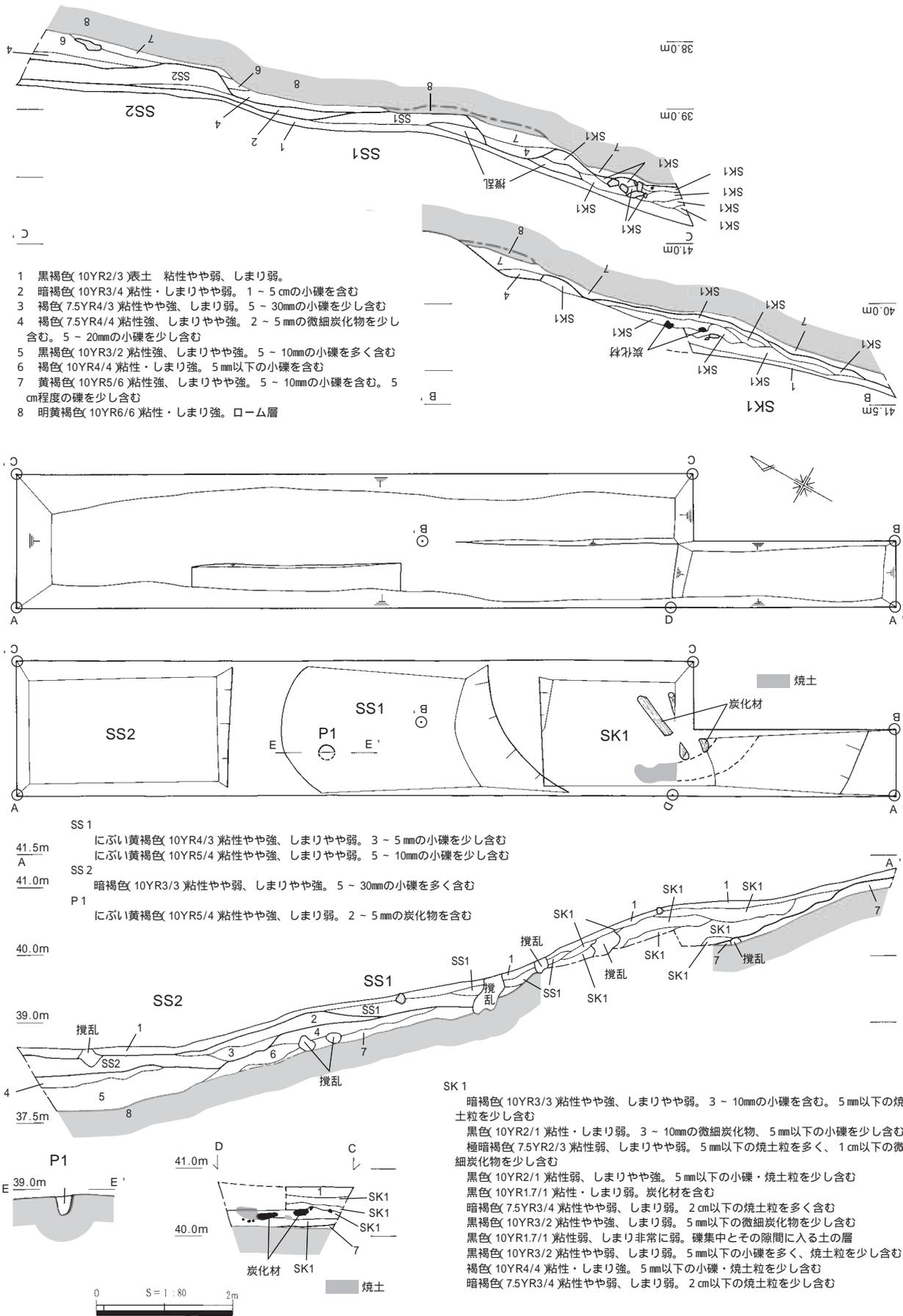
#### Tr. 2(第61・62図、表14、PL.19・21)

調査地南東寄り、標高約38～41mの斜面部から傾斜変換点付近に設定した。トレンチの南端で表土を厚さ10cm程度除去すると、炭・焼土混じりの黒色土を確認したため、トレンチ南側を幅1mで3m延長し調査を行った。1層(表土)直下で、製炭土坑1基、底面にピット1基を伴う段状遺構1基(SS1)を検出した。さらに、4層を遺構検出面とする段状遺構を1基(SS2)検出した。また、7層が弥生土器の薄片をわずかに包含することを確認できた。以下、検出した遺構について概要を述べる。

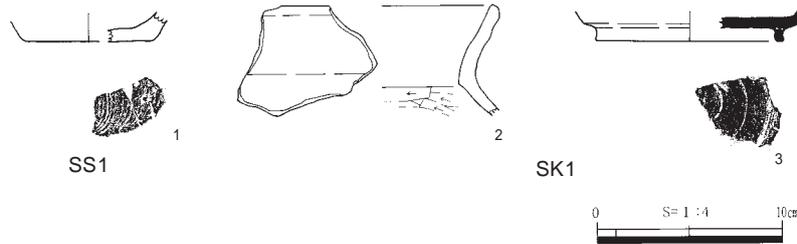
SK1は1層(表土)直下において検出した。調査は部分的にサブトレンチ掘削を行い、埋土の堆積状況の確認に留めた。平面形は不明であるが、確認できている箇所での径は約4.8m、深さは約60cmを測る。埋土は黒色系で、全体的に炭・焼土粒を含む。層中には製品と思われる炭化材、さらにその下には焼土面も確認できた。層からは10～30cm程度の礫が複数まとまって確認できた。その状態から焚き口であった可能性も考えられる。遺物は古代の土師器、須恵器が出土している。2は土師器甕の口縁部、3は須恵器坏の底部である。

SS1は2層上面において検出した。深さ約40cm、平坦面の幅は約2.4mを測る。平坦面にはピット

# 第5章 確認調査の概要



第61図 Tr. 2



第62図 Tr. 2 出土遺物

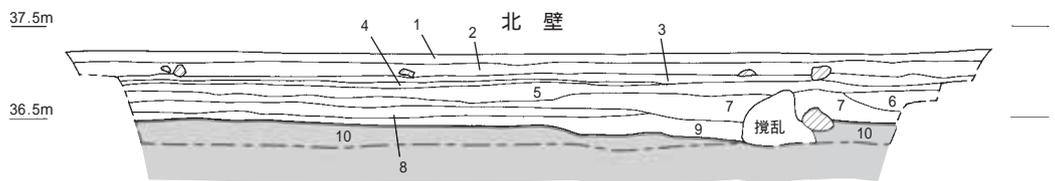
1基を確認した。検出面での径は約22cm、深さ約26cmを測る。1は古代の土師器坏底部である。出土位置は特定できていないが、SS1埋土中から出土した可能性が高い。斜面上部側で埋土の一部がSK1に若干被る部分はあるが、位置や形態的な特徴および遺物の時期から判断してSS1はSK1と一連の遺構と考えられる。

SS2は4層上面において検出した。深さ約40cm、平坦面の幅は約2.6mを測る。3層はSS2の一部という見方もできるが、埋土の色・質の状態からSS2とは区別した。遺物の出土はなく時期は不明である。

Tr. 4(第63・64図、表14、PL.20・21)

調査地内の河川を挟んで北西側、標高約37mの平坦面上に、北東-南西方向に2×10mのトレンチを設定した。1層の表土下は、2層が比較的新しい耕作土、3～5・7層が旧耕作土となっており、人為的な互層状の堆積であった。7層下には、8層の砂層を挟んで、9層の褐灰色重植土があり、9層をプライマリーな遺物包含層と考えた。その下層の10層が、河川堆積による砂壤土であり基盤層と判断した。この10層上面における現地表面からの深さは0.8～1.0mである。

遺物は、古墳時代～古代を中心に多く出土している。2層からは古代の遺物が出土している。4は須恵器坏、5は赤彩土師器の坏または碗の口縁部片である。3層出土の6・7は須恵器で、6は古墳時代の高坏、7は古代の坏である。5層出土の8～11・17は須恵器で、8・9は古墳時代のそれぞれ坏蓋、高坏であり、10・11は古代の坏、17は古代の甕口頸部～胴部片である。12は赤彩土師器皿、13～16は土師器甕である。6・7層出土の18・19は古代の須恵器坏である。9層からは古墳時代～古代の遺物が出土している。20は土玉、21・22は古墳時代の須恵器坏蓋、23は古代の須恵器坏、24は古代

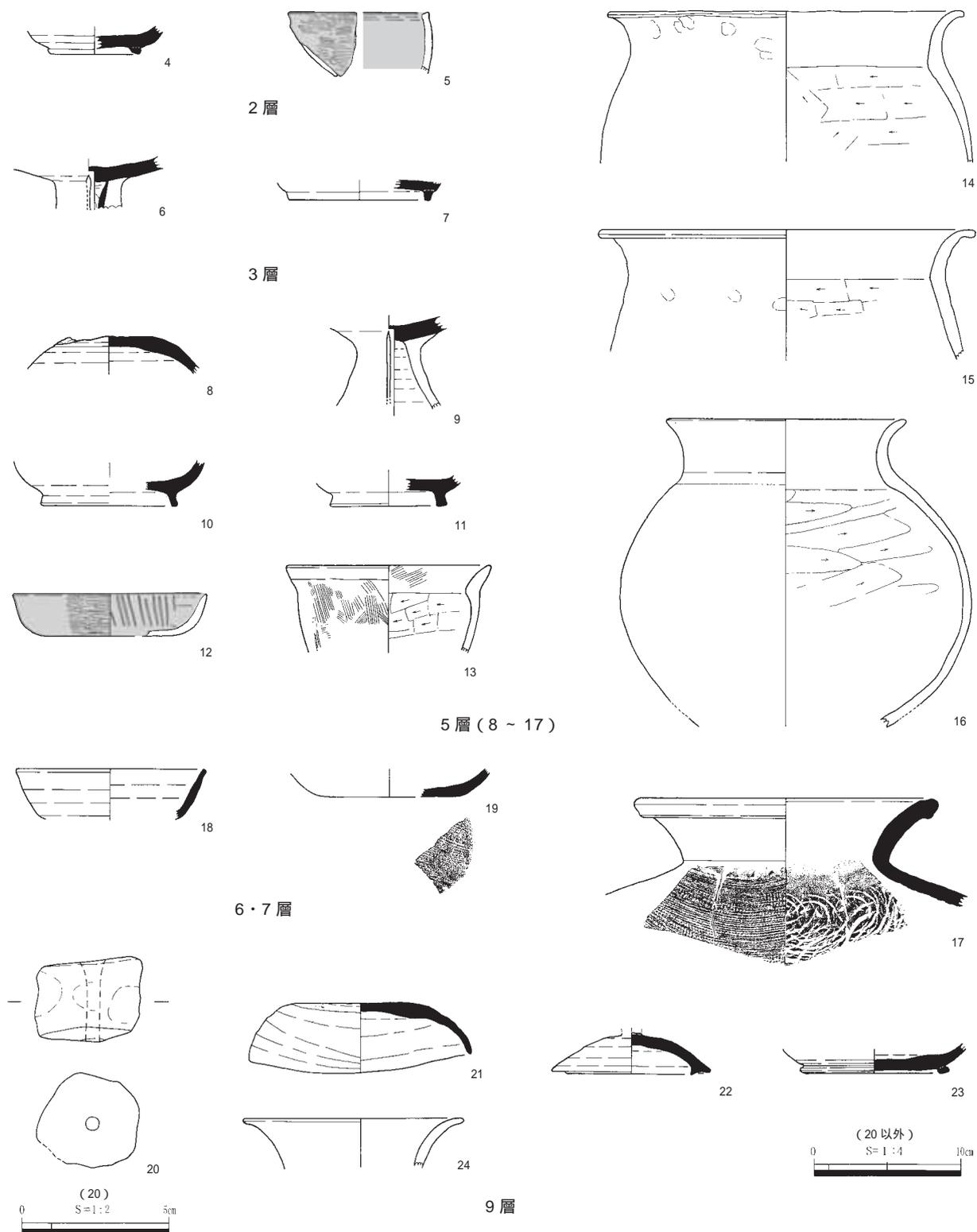


- 1 灰黄褐色(10YR4/2)耕作土 粘性弱、しまりやや強。粗砂・1～3cmの礫をやや密に含む。遺物包含
- 2 暗褐色(10YR3/3)耕作土 粘性弱、しまりやや強。粗砂・礫を多く含む。鉄沈着。遺物包含
- 3 灰黄褐色(10YR4/2)旧耕作土 粘性・しまりやや強。細砂・粗砂をやや密に、1～3cmの礫を少し含む。1層に近似。遺物包含
- 4 暗褐色(10YR3/3)旧耕作土 粘性・しまりやや強。細砂・粗砂をやや密に、礫を多く含む。鉄沈着。遺物包含
- 5 暗褐色(10YR3/4)旧耕作土 粘性・しまりやや強。粗砂・礫をやや密に含む。鉄沈着。遺物包含
- 6 灰黄褐色(10YR5/2)砂質埴土 粘性やや強、しまりやや弱。細砂を多く、礫を少し含む。鉄分含む
- 7 灰黄褐色(10YR4/2)重埴土 旧耕作土 粘性やや強、しまりやや弱。細砂・粗砂・礫をやや密に含む。遺物包含
- 8 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質埴土 粘性・しまり弱。細砂・粗砂・シルトをやや密に、礫を多く含む。遺物包含
- 9 褐灰色(10YR4/1)重埴土 粘性・しまりやや強。細砂・粗砂・1～2cmの礫を多く含む 鉄分含む。遺物包含
- 10 灰黄褐色(10YR4/2)砂壤土 粘性やや強、しまりやや弱。シルト・細砂・粗砂・0.2～1cmの礫を多く含む

第63図 Tr. 4

第5章 確認調査の概要

の土師器の甕口縁部片である。



第64図 Tr. 4 出土遺物

表14 出土土器観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第62図	No.8	Tr. 2 SS 1埋土	土師器 坏	底部 1/4以下	底径： 7.0 器高： 1.5	外面：体部ヨコナデ。底面回転系切り 内面：ナデ	密	良好	内外面：淡明褐色	
2	第62図	No.15	Tr. 2 SK 1埋土	土師器 甕	口縁部 1/8以下	口径： 22.6 器高： 6.0	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ。胴部ケズリ	密(0.1～0.5mm程度の砂粒を含む)	良好	内外面：にぶい黄橙色	
3	第62図	No.9	Tr. 2 SK 1埋土	須恵器 坏	底部 1/4以下	高台径： 12.4 器高： 1.7	外面：回転ナデ。底面へラ切り未調整 内面：底部回転ナデ。	密	良好	内外面：オリーブ灰色	
4	第64図	No.19	Tr. 4 2層	須恵器 坏	底部 1/4以下	高台径： 6.1 器高： 2.8	内外面：回転ナデ	密(2mm大の礫含む)	良好	内外面：青灰～暗灰色	貼付高台
5	第64図	No.19	Tr. 4 2層	土師器 坏または塊	口縁部 1/4以下	器高： 4.2	外面：ヨコ方向のミガキ 内面：不明。ミガキか	密	良好	内面：浅黄～橙色 外面：橙色	内外面赤色塗彩
6	第64図	No.23	Tr. 4 3層	須恵器 高坏	脚部 1/3	器高： 2.5	外面：回転ナデ。3方スカシ(貫通しない) 内面：ナデ	密	良好	内外面：灰色	
7	第64図	No.23	Tr. 4 3層	須恵器 坏	底部 1/4以下	高台径： 9.6 器高： 1.9	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	貼付高台
8	第64図	No.25	Tr. 4 5層	須恵器 坏蓋	天井部	器高： 2.7	外面：天井部回転ケズリ。体部回転ナデ 内面：回転ナデ	やや密	良好	外面：灰～暗灰色 内面：灰色	粘土付着
9	第64図	No.24	Tr. 4 5層	須恵器 高坏	脚部 1/2弱	器高： 6.4	外面：回転ナデ。2方スカシ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	
10	第64図	No.25	Tr. 4 5層	須恵器 坏	体～底部 1/4以下	高台径： 9.3 器高： 3.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ。底面ナデ	密(砂粒を多く含む)	良好	内外面：灰色	貼付高台
11	第64図	No.24	Tr. 4 5層	須恵器 坏	底部 1/4以下	高台径： 6.8 器高： 2.1	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	貼付高台
12	第64図	No.25	Tr. 4 5層	土師器 皿	口縁～底部 1/4～1/2	口径： 13.0 底径： 8.2 器高： 2.9	外面：ヨコ方向のミガキ 内面：体部回転ナデ、一部ミガキ後暗文 底部不定方向ナデ	密	良好	内外面：にぶい橙色	内外面赤色塗彩
13	第64図	No.25	Tr. 4 5層	土師器 甕	口縁～胴部 1/4以下	口径： 13.6 器高： 6.0	外面：口頸部ナデ。胴部ハケ目 内面：口頸部ナデ、一部ハケ目。 胴部左方向へのケズリ	密(径0.5～2mm程度の砂粒を多量に含む)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙～灰黄褐色	
14	第64図	No.25	Tr. 4 5層	土師器 甕	口縁～胴部 1/4	口径： 24.0 器高： 10.3	外面：口頸部指頭圧痕。他不明 内面：口頸部回転ナデ。胴部ケズリ後ナデ	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	
15	第64図	No.25	Tr. 4 5層	土師器 甕	口縁～胴部 1/4以下	口径： 24.0 器高： 9.0	外面：ナデ 内面：口頸部ナデ。胴部ケズリ後ナデ	密	良好	外面：橙色 内面：褐～橙色	
16	第64図	No.25	Tr. 4 5層	土師器 甕	口縁～胴部 ほぼ完形	口径：15.9 最大径：23.8 器高： 21.1	外面：ナデ 内面：口頸部ナデ。胴部ケズリ後ナデ	密(径0.1～0.5mm程度の砂粒を含む)	良好	内外面：にぶい橙色	
17	第64図	No.24	Tr. 4 5層	須恵器 甕	口縁～胴部 1/5	口径： 19.8 器高： 7.3	外面：口頸部回転ナデ。胴部タタキ後力キ目 内面：口頸部回転ナデ。胴部同心円文	密	やや良好	内外面：灰色	
18	第64図	No.26	Tr. 4 6・7層	須恵器 坏	口縁～体部 1/4以下	口径： 12.8 器高： 4.5	内外面：回転ナデ	密(砂粒を少し含む)	良好	内外面：灰色	
19	第64図	No.26	Tr. 4 6・7層	須恵器 坏	底部 1/8以下	底径： 10.0 器高： 1.7	外面：回転ナデ。底面静止系切り 内面：体部回転ナデ。底部ナデ	密	良好	内外面：灰色	
20	第64図	No.29	Tr. 4 9層	土玉	ほぼ完形	直径：3.4～3.5 厚さ：3.0	ナデ。指頭圧痕	密	良好	内外面：にぶい橙色	
21	第64図	No.29	Tr. 4 9層	須恵器 坏蓋	完形	口径：15.0 器高：4.8	外面：天井部回転ケズリ。体部回転ナデ 内面：天井部回転ナデ後ナデ。体部回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	歪み大きい
22	第64図	No.27	Tr. 4 9層	須恵器 坏蓋	ほぼ完形	口径：8.0 最大径：10.6 器高： 2.6	外面：天井部回転ケズリ後ナデ。体部ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	つまみ欠損
23	第64図	No.27	Tr. 4 9層	須恵器 坏	底部 1/4以下	高台径： 10.2 器高： 1.9	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：灰色	
24	第64図	No.27	Tr. 4 9層	土師器 甕	口縁部 1/8以下	口径： 14.8 器高： 3.5	内外面：ナデ	密(1mm大の砂粒を含む)	良好	内外面：黄褐色	

## 第5章 確認調査の概要

### 第6節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡の調査

調査地点 大山町殿河内912 - 4 外

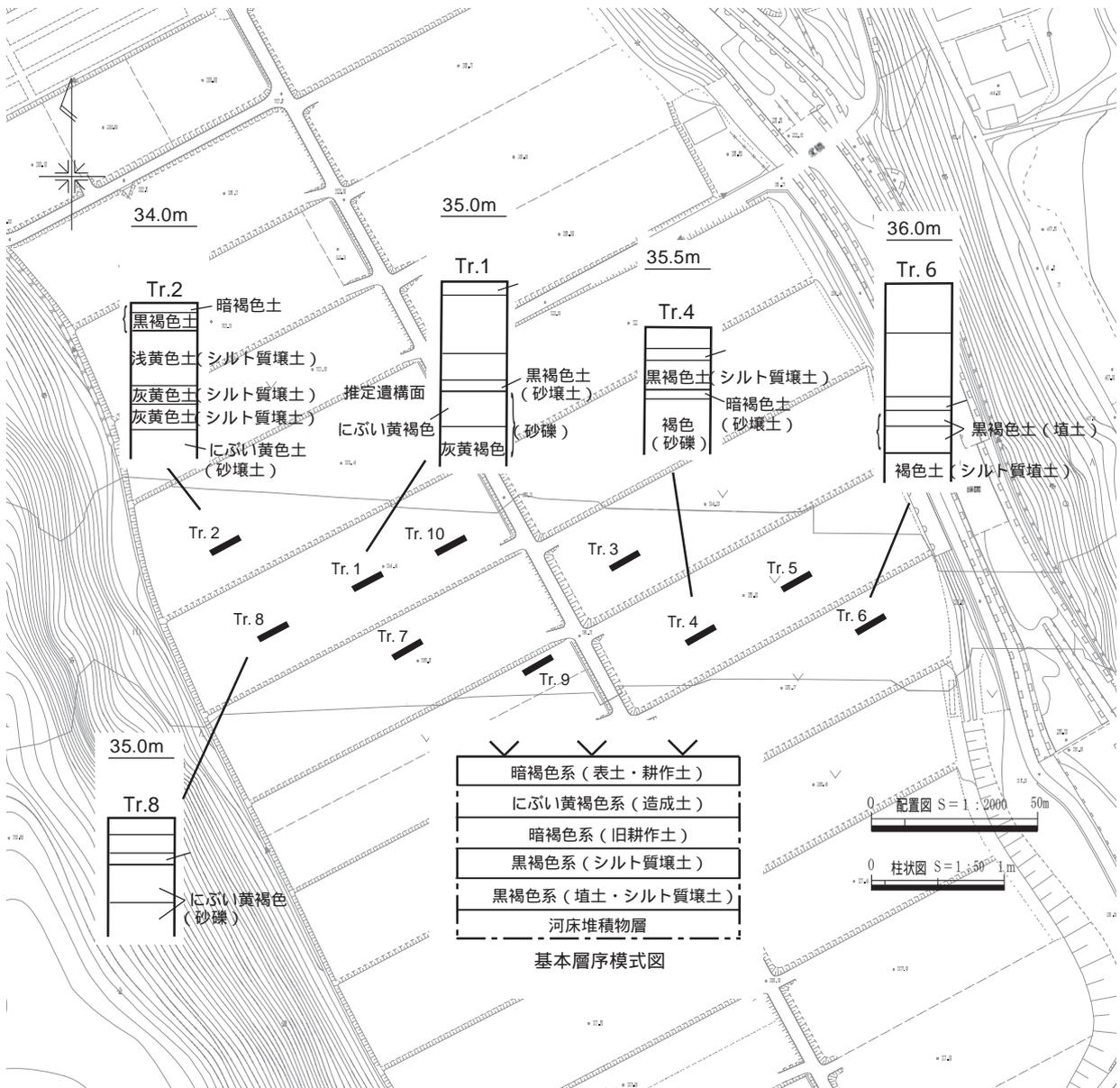
調査期間 平成21年10月16日～平成21年10月30日

調査面積 200m<sup>2</sup>

調査概要(第65図、表15、PL.22～25)

殿河内上ノ段大ブケ遺跡は、下市川の西岸に位置している。調査地は下市川によって形成された非常に狭い沖積地で、すぐ西側には南北方向に丘陵が延びている。現地表面での標高は約34～35mである。調査地の地目は水田で、大規模な削平を伴う圃場整備が行われている。

開発予定地内に10本のトレンチを掘削した。いずれのトレンチでも、遺構は確認していないが、Tr.1・5・6で遺物包含層を確認した。



第65図 トレンチ位置図および基本層序模式図

表15 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模 (m)	面積 (㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物 ( * 突帯文土器は「縄文土器」に含めた )			確認した 包含層数 等	遺構検出 層位
			遺構名	出土遺物	遺構の 時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.1	2×10	20	-	-	-	3層(層)	縄文土器・突帯文土器 弥生土器・土師器 中世須恵器・石器	縄文時代～中世	1層(層)・ 2層(層)	縄文土器・土師器 須恵器・陶磁器	縄文時代 ～近世	2層	-
						4層	縄文土器・突帯文土器 弥生土器	縄文時代～弥生時代					
Tr.2	2×10	20	-	-	-	-	-	-	・層	縄文土器・土師器 須恵器・陶磁器	縄文時代 ～近世	-	-
Tr.3	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層) 2層(層)	縄文土器・土師器 須恵器・中世須恵器	縄文時代 ～中世	-	-
Tr.4	2×10	20	-	-	-	-	-	-	・層	土師器・須恵器 陶磁器	中世?～ 近世	-	-
Tr.5	2×10	20	-	-	-	4層(層)	縄文土器・突帯文土器	縄文時代～弥生時代	1層(層) 2層(層)	縄文土器・須恵器 陶磁器	縄文時代 ～近世	1層	-
Tr.6	2×10	20	-	-	-	4・5層 (層)	縄文土器・突帯文土器	縄文時代～弥生時代	1層(層)・ 3層(層)	縄文土器・土師器 中世須恵器・陶磁器	縄文時代 ～近世	1層	-
Tr.7	2×10	20	-	-	-	-	-	-	・層	縄文土器・土師器 須恵器・陶磁器	縄文時代 ～近世	-	-
Tr.8	2×10	20	-	-	-	-	-	-	・層	縄文土器・須恵器 陶磁器・瓦	縄文時代 ～近世	-	-
Tr.9	2×10	20	-	-	-	-	-	-	・層	縄文土器・土師器 須恵器・陶磁器・瓦	縄文時代 ～近世	-	-
Tr.10	2×10	20	-	-	-	-	-	-	・層	縄文土器・須恵器 陶磁器	縄文時代 ～近世	-	-
面積合計		200											

調査地内の堆積はトレンチごとに違いが大きいものの、基盤層となる河床堆積物層の上におおむね5層の基本層序(～層)を確認している。

層は表土・耕作土、層は圃場整備に伴うと考えられる造成土、層は圃場整備以前の旧耕作土と考えられる土層である。層は調査地西半部に見られる粘性のあるシルト質壤土層で、縄文時代から中世にかけての遺物を含んでいた。旧耕作土の可能性もあるが、新しい遺物を明確に含んでいなかったため、中世ごろに形成された包含層の可能性も考えられる。層は調査地東半部に見られる埴土～シルト質壤土で、縄文土器や突帯文土器を多量に含んでいた。縄文時代後期から弥生時代前期にかけて形成された包含層と考えられる。そのほか、Tr.1では基本層序に統合できなかった河川性堆積物層中からも遺物が出土している。

このように、遺物包含層を確認したことから、遺跡が現存すると判断した。確認調査では遺構を確認していないが、層下面などに遺構が存在する可能性もあろう。

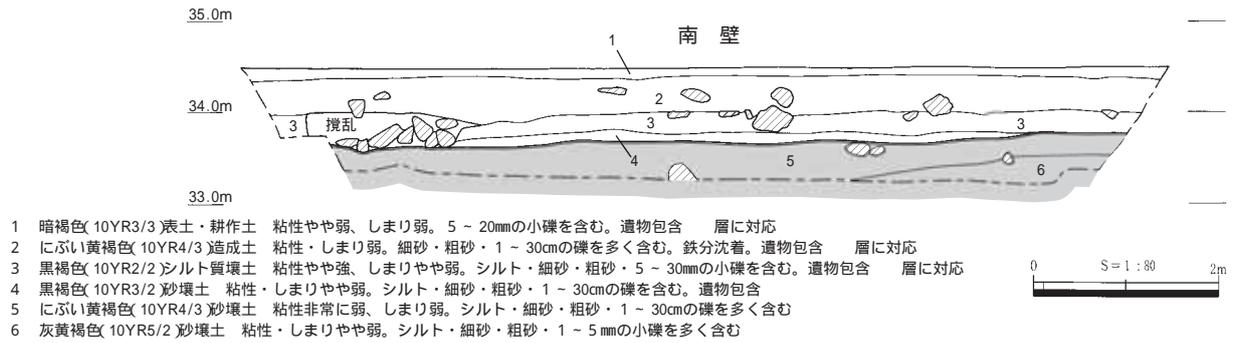
以下、包含層を確認したトレンチを中心に報告を行う。なお、その他のトレンチの調査結果については表15を参照されたい。

Tr.1(第66・67図、表16、PL.23・24)

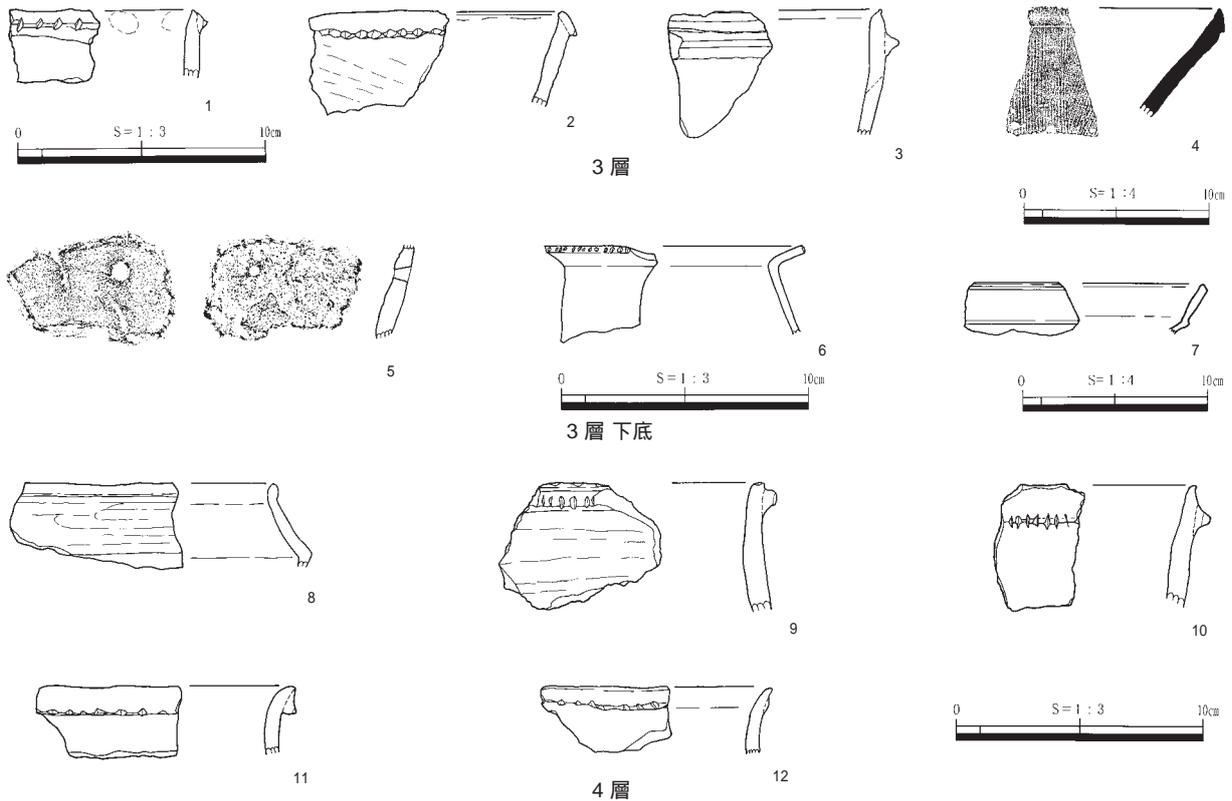
調査地西半部の中央付近に設定した。1層が耕作土、2層が圃場整備による造成土である。3層は基本層序層に対応する黒褐色シルト質壤土で、先述のように旧耕作土であるのか包含層であるのかが確定できなかった層である。4層が本トレンチのみで確認した礫を多く含む砂壤土層で、遺物を包含していた。5層以下が基盤層と判断した砂礫層である。

3層からは縄文時代から中世にかけての遺物が出土している。そのうち7点を図示した。1・2は突帯文土器深鉢、3は土師器羽釜で、4は東播系の須恵質陶器の擂鉢である。5～7は3層下底からの出土で、5は縄文時代の粗製土器、6は弥生時代中期の甕、7は古墳時代中期の甕である。4層からは突帯文土器を中心に、縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての遺物が出土している。8は縄文

## 第5章 確認調査の概要



第66図 Tr. 1



第67図 Tr. 1 出土遺物

時代晩期の浅鉢、9～12は突帯文土器深鉢である。

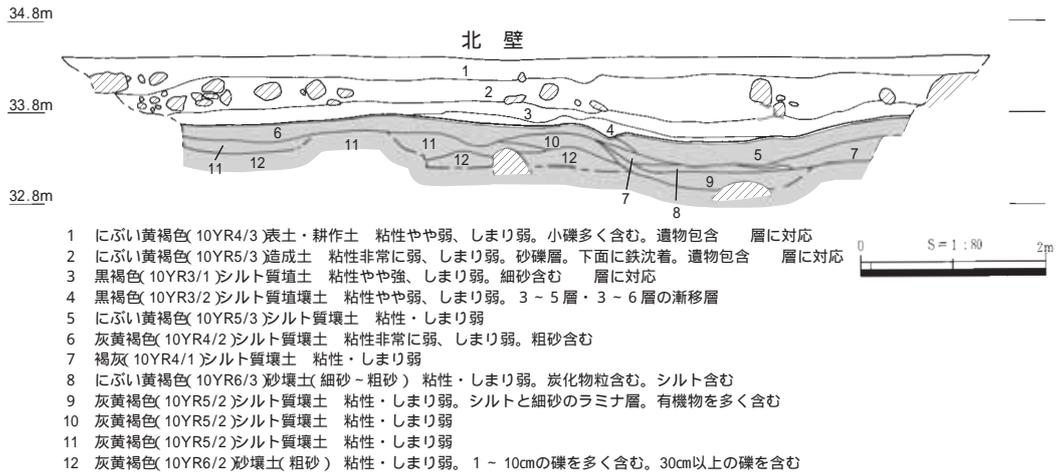
### Tr. 3(第68図、PL.23)

調査地東半部の西端に設定した。1・2層が耕作土・造成土、3・4層が旧耕作土、5層以下が河川性堆積物層である。5層以下は細かい単位での堆積が見られ、なかにはラミナ堆積が形成されている層も見られる。河川性堆積物層中からは遺物は出土していない。

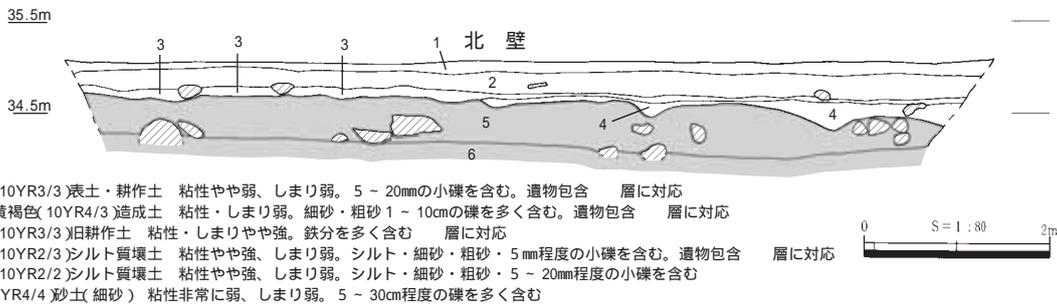
### Tr. 5(第69・70図、表16、PL.23・24)

調査地の東部に設定した。1・2層が耕作土・造成土、3層が旧耕作土、4層が基本層序層に対応するシルト質壤土で遺物包含層である。5層は砂質の強いシルト質壤土、6層は砂層で、5層以下を基盤となる河川性堆積物層と判断した。4層からは縄文時代後期～晩期の土器が出土している。14は縄文時代後期初頭の深鉢口縁、15・16は縄文時代後期～晩期の粗製土器深鉢、17は深鉢底部である。

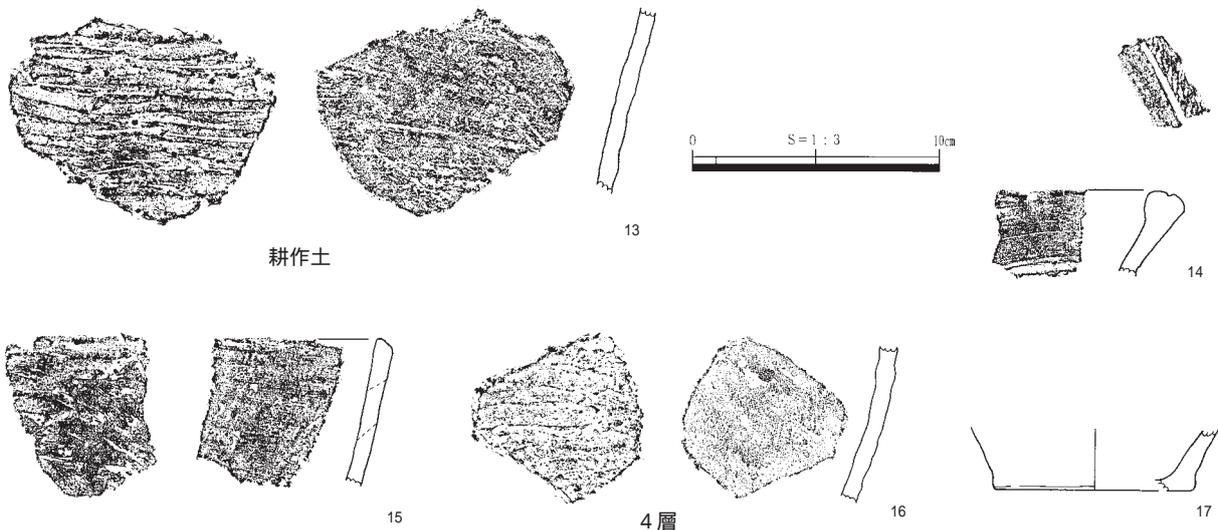
第6節 殿河内上ノ段大ブケ遺跡の調査



第68図 Tr. 3



第69図 Tr. 5



第70図 Tr. 5 出土遺物

そのほか、耕作土からも多数の縄文土器片などが出土している。そのうち、粗製土器深鉢片を1点(13)図示した。

Tr. 6(第71・72図、表16・17、PL.23・25)

調査地の東端部に設定した。1・2層が耕作土・造成土、3層が旧耕作土、4・5層が基本層序

## 第5章 確認調査の概要

層に対応する遺物包含層である。本トレンチでは 層を2つの層に分離して捉えたが、基本的には同一の堆積と見ても良いと思われる。6・7層は他のトレンチでは確認していないシルト質埴土である。包含層直下の7層上面が遺構検出面になる可能性を考えて、この層の検出をもって掘り下げを停止した。なお、7層は土壌化が進行していることからみて、7層堆積後は安定した環境にあった可能性も考えられるため、この層の上面で遺構を検出する可能性は高いものと思われる。

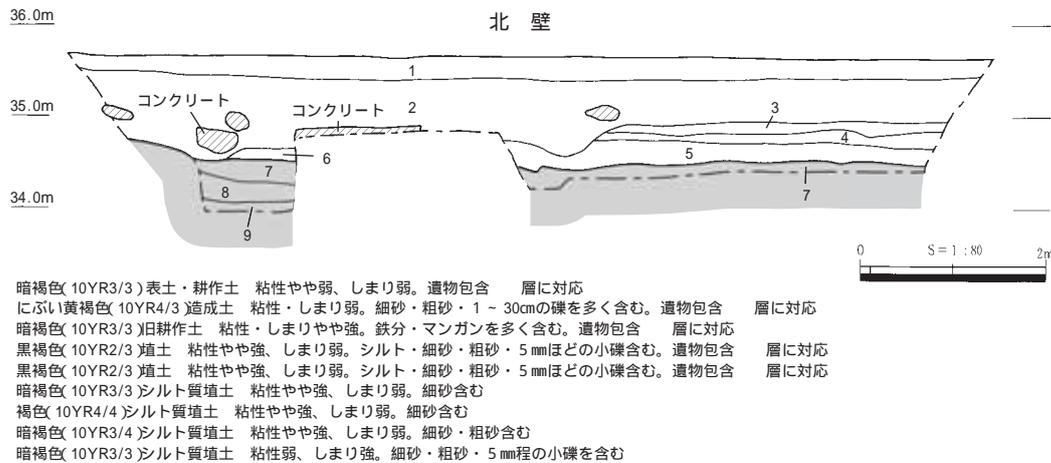
18～21は1～3層から出土した土器である。

4・5層からは縄文時代後期～晩期の土器がまとめて出土している。

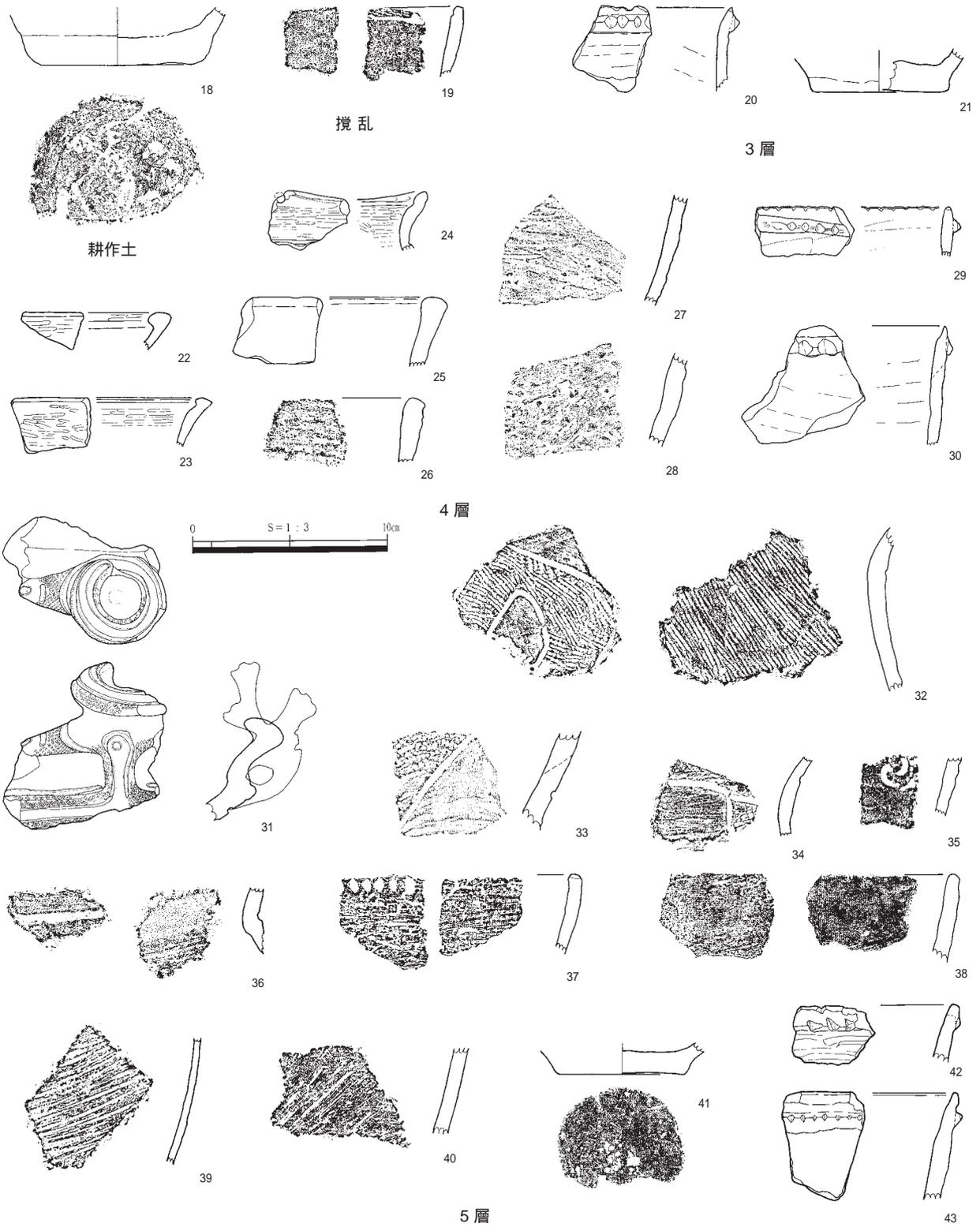
22～30が4層出土土器である。22～25は縄文時代後期の土器と考えられるもので、22・23は浅鉢、24は浅鉢または深鉢、25は深鉢である。26～28は縄文時代後期～晩期の粗製土器、29・30は突帯文土器深鉢である。

31～43が5層出土土器で、4層出土土器と同様の時期のものが見られる。31は精製浅鉢の波頂部片で、渦巻状突起と橋状取手が見られる。縄文時代後期前葉(縁帯文土器成立期)のものであろう。32は後期初頭(中津式)の深鉢頸部片である。33～36の有文土器片も磨消縄文と沈線による文様が付されることから縄文時代後期初頭～前葉の時期幅に収まるものと考えられる。37～40は粗製土器深鉢で、縄文時代後期～晩期のものと考えられる。なお、口縁部にキザミをもつ37は後期初頭のもの可能性がある。41は縄文時代後期～晩期土器の底部、42・43は突帯文土器深鉢である。

そのほか、耕作土などからも包含層と同時期の土器が出土している。



第71図 Tr. 6



第72図 Tr. 6 出土遺物

第5章 確認調査の概要

表16 出土土器観察表(1)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第67図	No.7	Tr.1 3層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/4以下	器高: 2.8	外面: ナデ。口縁端部に貼付刻み目突帯 内面: ナデ。指頭圧痕	密(0.1 ~ 0.3mm程度の石英を含む)	良好	内外面: にぶい黄橙色	
2	第67図	No.7	Tr.1 3層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/4以下	器高: 4.9	外面: ケズリ状ナデ。口縁部刻み目 内面: ナデ	密(長石・石英を含む)	良好	外面: 黄灰色 内面: にぶい黄橙色	
3	第67図	No.7	Tr.1 3層	土師質土器 羽釜	口縁部 1/4以下	器高: 6.8	外面: 回転ナデ。口縁部貼付突帯 内面: ナデ	密	良好	内外面: 灰白色	
4	第67図	No.7	Tr.1 3層	須恵質陶器 播鉢	口縁部 1/4以下	器高: 5.0	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ。播り目。	密	良好	内外面: 青灰色	東播系
5	第67図	No.9	Tr.1 3層下底	縄文土器 粗製深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 3.8	外面: ナデ 内面: 不明。ナデ?	密	良好	外面: 淡橙 - 浅黄橙色 内面: 浅黄橙色	補修孔 内面風化
6	第67図	No.9 No.10	Tr.1 3層下底	弥生土器 甕	口縁部 1/4 ~ 1/2	器高: 3.5	外面: ナデ。口縁端部に刻み目 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄橙色	
7	第67図	No.9	Tr.1 3層下底	土師器 甕	口縁部 1/8以下	器高: 2.8	内外面: 回転ナデ	密	良好	外面: にぶい橙色 内面: にぶい黄橙色	
8	第67図	No.13	Tr.1 4層	縄文土器 浅鉢	口縁部 1/8以下	器高: 3.4	外面: ナデ後ミガキ 内面: ナデ	密(石英多く含む)	良好	内外面: オリーブ黒色	
9	第67図	No.10	Tr.1 4層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 5.3	外面: ナデ。口縁部貼付刻み目突帯、口縁上端にキザミ 内面: ケズリ状ナデ	密(長石・長石の砂粒多く含む)	良好	外面: にぶい橙 - 褐灰色 内面: 褐灰 - 橙色	
10	第67図	No.10	Tr.1 4層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/4以下	器高: 5.0	外面: ナデ。貼付刻み目突帯 内面: ナデ	密(0.1 ~ 0.3mm程度の長石・石英を含む)	良好	外面: にぶい黄橙 - 灰黄褐色 内面: にぶい黄橙 - 黄灰色	
11	第67図	No.10	Tr.1 4層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 2.8	外面: ナデ。口縁部貼付刻み目突帯 内面: ナデ	密(0.1 ~ 0.2mm程度の石英・長石を多く含む)	良好	内外面: にぶい黄橙色	
12	第67図	No.10	Tr.1 4層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 2.7	外面: ナデ。口縁部貼付刻み目突帯 内面: ナデ	密(長石粒を多く、石英・雲母を含む)	良好	外面: 暗黄褐色 内面: 灰黄色	
13	第70図	No.22	Tr.5 耕作土	縄文土器 粗製深鉢	胴部 1/8以下	器高: 7.6	外面: ケズリ状工具ナデ 内面: ナデ	密(径0.1 ~ 2mm程度の長石・石英を多く含む)	良好	内外面: にぶい黄橙色	
14	第70図	No.17	Tr.5 4層	縄文土器 精製深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 3.9	外面: ナデ。口縁上端はRL 縄文・ミガキ後、1条の沈線 内面: ミガキ	密(0.2 ~ 2mm程度の長石・石英を多く含む)	良好	内外面: にぶい黄橙色	外面にスス附着
15	第70図	No.17	Tr.5 4層	縄文土器 粗製深鉢	口縁部 1/4以下	口径: 20.0 器高: 6.0	内外面: ナデ	密(0.2 ~ 2mm程度の石英・長石を多く含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黄褐色	
16	第70図	No.22	Tr.5 4層	縄文土器 粗製深鉢	胴部 1/8以下	器高: 6.3	外面: ケズリ状工具ナデ 内面: 丁寧なナデ	密	良好	外面: 褐灰色 内面: にぶい黄橙色	
17	第70図	No.22	Tr.5 4層	縄文土器 深鉢	底部 1/4以下	底径: 8.0 器高: 2.5	内外面: ナデ	密(0.5 ~ 1mm程度の長石・石英を多く含む)	良好	外面: 浅黄橙色 内面: 灰白色	外面風化
18	第72図	No.21	Tr.6 耕作土	縄文土器 深鉢	底部 1/2 ~ 3/4	底径: 7.6 器高: 3.0	内外面: ナデ	密	良好	外面: にぶい赤褐色 内面: 明赤褐色	内面風化
19	第72図	No.25	Tr.6 攪乱土	縄文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 3.6	外面: ナデ 内面: ナデ、RL 縄文後、沈線	密	やや不良	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい褐色	
20	第72図	No.31	Tr.6 3層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 4.4	外面: ナデ。口縁部に貼付刻み目突帯 内面: ナデ	密(径0.2 ~ 2mm程度の長石・石英を含む)	良好	外面: にぶい褐色 内面: にぶい黄橙色	
21	第72図	No.31	Tr.6 3層	縄文土器 深鉢	底部 1/4以下	器高: 2.2	外面: ナデ? 内面: ナデ?	やや粗(石英・長石・角閃石を多く含む)	やや良好	外面: にぶい赤褐色 内面: 灰黄褐 - にぶい黄褐色	表面風化
22	第72図	No.29	Tr.6 4層	縄文土器 浅鉢	口縁部 1/8以下	器高: 1.9	内外面: ミガキ	密(長石・石英・安山岩の砂粒を含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黒褐色	

表17 出土土器観察表(2)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
23	第72図	No.29	Tr.6 4層	縄文土器 浅鉢	口縁部 1/8以下	器高: 2.8	内外面: ミガキ	密	良好	外面: にぶい褐色 内面: 暗褐色	
24	第72図	No.29	Tr.6 4層	縄文土器 浅鉢 または深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 3.0	外面: ミガキ。頸部に沈線。波状口縁、波頂部に円孔(焼成前) 内面: ミガキ。口縁部に沈線	密	良好	外面: 黄褐色 内面: 黒褐色	
25	第72図	No.29	Tr.6 4層	縄文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 3.6	内外面: ナデ?	やや密(径1mm以下の石英を多く含む)	良好	内外面: 浅黄橙 - にぶい黄褐色	表面風化
26	第72図	No.29	Tr.6 4層	縄文土器 粗製深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 3.3	外面: ケズリ状 内面~上端: 丁寧なナデ	やや密(径1.0~1.5mm程度の砂粒多く含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
27	第72図	No.29	Tr.6 4層	縄文土器 粗製深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 5.7	外面: ケズリ状 内面: 丁寧なナデ	密(径0.1~0.3mm程度の石英・長石を含む)	良好	内外面: 橙色	
28	第72図	No.29	Tr.6 4層	縄文土器 粗製深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 4.7	外面: ケズリ状 内面: 丁寧なナデ	密(径0.25~1mm程度の長石多く含む)	良好	外面: にぶい橙色 内面: 浅黄褐色	
29	第72図	No.29	Tr.6 4層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 2.6	外面: 口縁部ナデ、貼付刻み目突帯、口縁上端にキザミ。胴部ケズリ 内面: 口縁部付近ナデ。それより下位ケズリ	密(径1mm程度の石英多く含む)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
30	第72図	No.29	Tr.6 4層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 6.1	外面: 口縁部ナデ、貼付刻み目突帯。胴部ケズリ 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
31	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 浅鉢	口縁部 1/8以下	器高: 8.3	外面: RL 縄文、ミガキ後沈線 沈線後一部ミガキ 内面: ミガキ	密(石英・長石・角閃石・雲母含む)	良好	内外面: 褐灰色	
32	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 深鉢	胴部 1/8以下	器高: 8.6	外面: RL 縄文、ナデ後、沈線 内面: 貝殻条痕	密(径0.5~2mm程度の長石・石英多く含む)	良好	外面: にぶい黄橙 - 明黄褐色 内面: にぶい黄橙 - 灰黄褐色	
33	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 深鉢	胴部 1/8以下	器高: 5.1	外面: RL 縄文後、沈線、その後ナデ・ミガキ 内面: ナデ・ミガキ	密(径0.1~0.4mm程度の安山岩粒を多く、石英・角閃石・雲母少量含む)	良好	内外面: 橙色	
34	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 深鉢	胴部 1/8以下	器高: 4.0	外面: RL? 縄文、ナデ後、沈線 内面: ミガキ	密(径0.5mm以下の安山岩・石英・角閃石少量含む)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
35	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 深鉢	胴部 1/8以下	器高: 3.0	外面: ナデ、沈線によるJ字文 内面: ナデ	密(径0.1~1mm程度の長石・石英含む)	良好	外面: 灰黄褐色 内面: 浅黄色	
36	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 深鉢	胴部 1/8以下	器高: 3.4	外面: ナデ、沈線 内面: ナデ・ケズリ状	密(径1mm以下の安山岩・長石・石英・角閃石含む)	良好	外面: 黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
37	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 粗製深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 4.1	内外面: 植物質工具による条痕。口縁端部にキザミ目	密(径0.5~1mm程度の安山岩・長石多く含む)	良好	外面: 暗褐色 内面: 黄褐 - 黒褐色	
38	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 粗製深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 4.5	外面: ナデ 内面: 一部条痕後、ナデ	密(径0.5~1mm程度の安山岩・長石・石英含む)	良好	外面: 灰黄褐 - 黒褐色 内面: 浅黄褐色	
39	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 粗製深鉢	胴部 1/8以下	器高: 6.4	外面: 条痕 内面: 丁寧なナデ	密(径0.2~2mm程度の石英・長石を多く含む)	良好	外面: にぶい黄色 内面: 浅黄色	
40	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 粗製深鉢	胴部 1/8以下	器高: 4.5	外面: 条痕後ナデ 内面: 丁寧なナデ	密(径0.1~1mm程度の長石・石英・金雲母多く含む)	良好	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
41	第72図	No.32	Tr.6 5層	縄文土器 浅鉢 または鉢	底部 3/4	底径: 6.4 器高: 1.6	内外面: ナデ	密(径0.5~2mm程度の安山岩・長石・角閃石・石英多く含む)	良好	外面: 浅黄橙 - 橙色 内面: にぶい黄橙 - 灰黄褐色	
42	第72図	No.32	Tr.6 5層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 3.0	外面: ケズリ。口縁部貼付刻み目突帯、口縁部キザミ目 内面: ナデ	密(径0.5~1.5mm程度の安山岩少量含む)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
43	第72図	No.32	Tr.6 5層	突帯文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 5.6	外面: ナデ。口縁部貼付刻み目突帯 内面: ナデ	密	良好	外面: 浅黄橙 - 暗褐色 内面: 浅黄橙 - にぶい黄褐色	外面にスス付着

## 第5章 確認調査の概要

### 第7節 殿河内定屋ノ前遺跡の調査

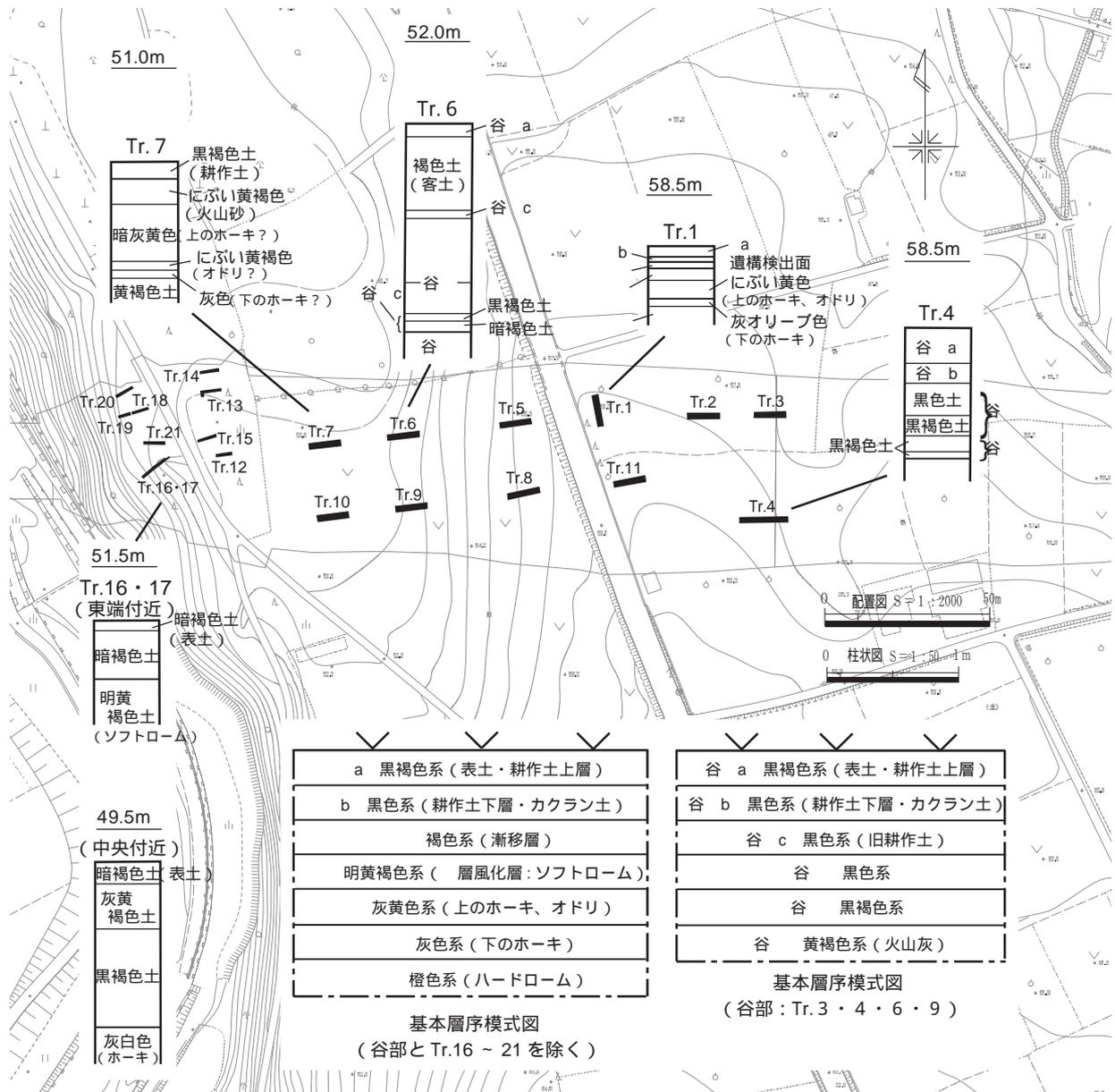
調査地点 大山町殿河内501外、住吉360 - 29外

調査期間 平成21年6月8日～平成21年7月30日

調査面積 286m<sup>2</sup>

調査概要(第73図、表18、PL.26～31)

殿河内定屋ノ前遺跡は、下市川東岸の丘陵西縁部に位置している。遺跡は標高約45～60mの丘陵上平坦面から丘陵西斜面にかけて所在しており、地形的特徴から丘陵上平坦面、丘陵西斜面、西側平坦面の大きく3つの地区に分けられる。丘陵上には遺跡の東側にもなだらかな平坦地が見られる。この平坦地は浅い谷と低い尾根が連続しており、遺跡はこのうち最も西の尾根から西側に所在している。丘陵上平坦面の西側は、県道を挟んで急な斜面になっている。この西斜面の西側には、標高50m



第7節 殿河内定屋ノ前遺跡の調査

の段丘状の平坦面が形成されている。西側平坦面の西は、非常に急な崖となって下市川へと落ち込んでいる。丘陵上平坦面の地目は梨畑で、梨畑造成に伴うと考えられる造成や攪乱が見られる。西側斜面・西側平坦面の地目は畑地および山林で、畑地となっていた部分には大規模な造成が見られた。

開発予定地内に21本のトレンチを設定して調査を行った。その結果、丘陵上平坦面で竪穴住居跡などの遺構を、丘陵西斜面では遺物を包含する埋没谷を、丘陵西側平坦面では道路状遺構などの遺構を検出した。

調査地は火山碎屑物堆積層が基盤となっており、その上に表土・耕作土が堆積している。これらの堆積は各トレンチで共通する土層として把握できており、6層の基本層序として整理できた。層は

表18 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模 (m)	面積 (㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.1	2×10	20	P1	-	-	-	-	-	1層 (a層)	弥生土器	弥生時代	1面	3層(層)上面
			P2	-	-	-	-	-					
			P3	弥生土器	弥生時代中期	-	-	-					
			P4	-	-	-	-	-					
			P5	-	-	-	-	-					
Tr.2	2×10	20	-	-	-	-	-	1層 (a層)	弥生土器・陶器	弥生時代・近世以降	-	-	
Tr.3	2×10	20	-	-	-	-	-	1層 (谷 a層)	弥生土器	弥生時代	-	-	
Tr.4	2×15	30	SD 1	弥生土器	弥生時代	-	-	-	1層 (谷 a層)	弥生土器・陶磁器	弥生時代・近世以降	1面	7層(層)上面
Tr.5	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.6	2×10	20	-	-	-	4～5層 (谷 層)	弥生土器	弥生時代中期	1～3層 (谷 a～c層)	弥生土器・陶磁器	弥生時代・近世以降	4層2面	-
			-	-	-	6～7層 (谷 層)	弥生土器	弥生時代中期					
Tr.7	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層	弥生土器・陶器染付	弥生時代・近世以降	-	-
Tr.8	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層	弥生土器・陶器	弥生時代・近世以降	-	-
Tr.9	2×10	20	-	-	-	6層 (谷 層)	縄文土器 弥生土器 黒曜石	縄文時代後晩期・弥生時代	1～5層 (谷 a～c層)	弥生土器・須恵器 陶磁器	弥生時代・古墳時代～古代・近世	4層2面	-
			-	-	-	7層 (谷 層)	弥生土器 鉄製釣針	弥生時代中期					
			-	-	-	8～9層 (谷 層)	弥生土器	弥生時代					
Tr.10	2×10	20	-	-	-	-	-	-	1層 (a層)	弥生土器・須恵器 陶磁器	弥生時代・古墳時代～古代・近世以降	-	-
Tr.11	2×10	20	SI 1	弥生土器	弥生時代中期	-	-	-	1層 (a層)	弥生土器・石器 染付	弥生時代・近世以降	-	-
Tr.12	1×5	5	-	-	-	-	-	-	1層	弥生土器・石鏃 須恵器	弥生時代・古墳時代～古代	-	-
Tr.13	1×6.5 + 1×1	7.5	P1	-	-	2～3層	弥生土器	弥生時代中期	1層	銅銭	近世以降	2層2面	3層・4層(層)上面
			P2	-	-								
Tr.13	1×6.5 + 1×1	7.5	道路状遺構	-	-								
Tr.14	1×6	6	道路状遺構	-	-	3a～3b層	弥生土器	弥生時代	-	-	-	2層1面	5層(層)上面
Tr.15	1×6	6	道路状遺構	-	-	4層	弥生土器	弥生時代	1層	弥生土器 土師器?	弥生時代	1層1面	6層(層)上面
Tr.16・17	1×9.2 + 0.5× 1.3	9.9	-	-	-	2層	弥生土器 須恵器	弥生時代・古墳時代～古代	1層	弥生土器・石斧	弥生時代	2層1面	-
			-	-	-	4層	弥生土器	弥生時代中後期					
Tr.18	1×5.4	5.4	-	-	-	-	-	-	1層	弥生土器・染付	弥生時代・近世以降	-	-
Tr.19	1×4	4	-	-	-	-	-	-	1層	弥生土器	弥生時代	-	-
Tr.20	1×5.7	5.7	-	-	-	-	-	-	1層	弥生土器	弥生時代	-	-
Tr.21	1×6.5	6.5	-	-	-	5～7層	弥生土器	弥生時代	1層	弥生土器	弥生時代	3層1面	-
面積合計		286											

## 第5章 確認調査の概要

表土、耕作土および攪乱土である。層が本来堆積していたクロボクなどの黒色系土から層への漸移層と思われる。層以下が火山碎屑物堆積層で、層がいわゆるソフトローム層、層と層が火山砂層、層がハードロームと呼ばれる橙色の硬質粘質土層である。層と層は粗い火山砂や安山岩小礫を含む火山砂層で、場所によっては厚く堆積している。なお、トレンチによっては、層の下底に粒度の細かい火山砂がラミナ状に堆積する3cm程度の暗色化層が見られる。層は上のホーキ火山砂、層下底部の堆積はオドリ火山砂層、層が下のホーキ火山砂層に対比されるものと考えている。遺構検出面は層上面である。

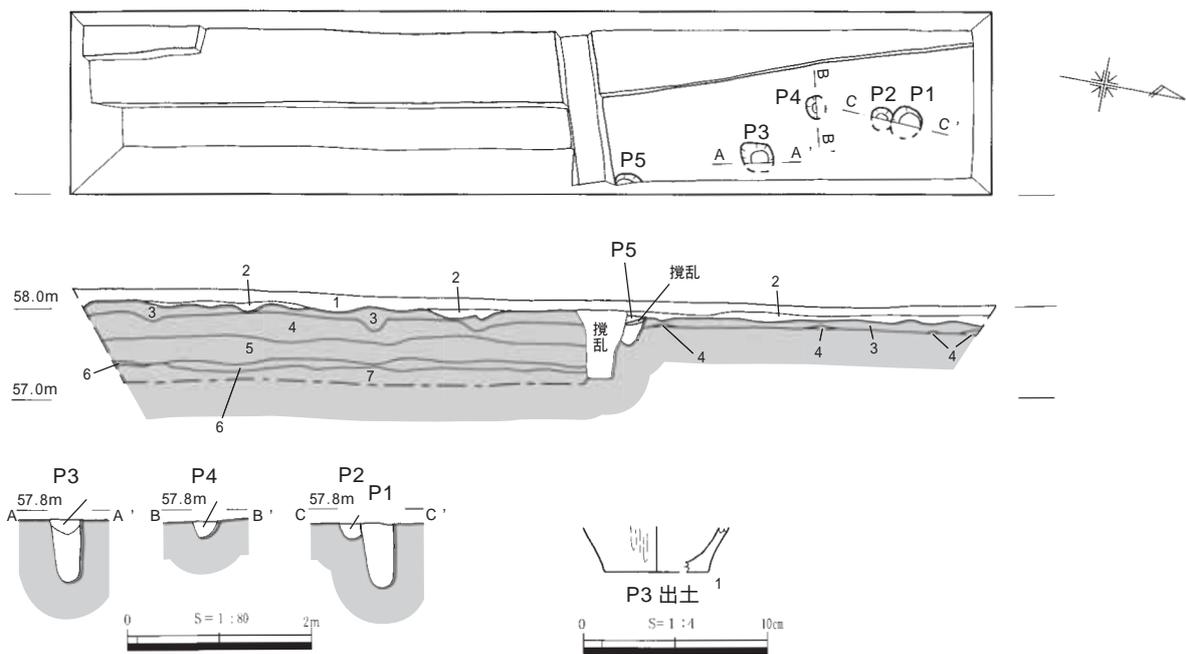
なお、調査地の西側斜面や丘陵上平坦面の東端部では火山碎屑物堆積層の上に黒系の谷堆積土が見られ、西側斜面の谷堆積土は遺物を包含していた。

以上のように、遺構と遺物包含層を確認したことから、開発予定地内に遺跡が現存すると判断した。

以下、遺構や遺物包含層を確認したトレンチについて報告を行う。その他のトレンチの調査結果については表18を参照されたい。

### Tr. 1(第74図、表22、PL.26・31)

丘陵上平坦面の尾根頂部に、尾根に並行して設定した。調査の結果、ピットを5基確認した。



- 1 黒褐色(10YR2/3)表土・耕作土 粘性・しまり弱。2～10mmの4・5層ブロックを多く含む 遺物包含 a層に対応
- 2 黒色(10YR2/1)耕作土・攪乱土 粘性・しまり弱。炭化物粒、砂粒、1～3mmの4・5層ブロックを含む b層に対応
- 3 褐色(10YR4/4)粘性・しまり弱。漸移層 層に対応
- 4 明黄褐色(10YR6/6)粘性・しまり弱。粗粒火山灰～ローム層。火山灰・火山砂あるいはバミス碎屑粒を多く含む 層に対応
- 5 にぶい黄色(2.5Y6/4)粘性弱、しまり強。火山砂層。安山岩砂粒多く含む。上のホーキ層またはオドリ層か 層に対応
- 6 灰オリーブ色(5Y5/2)粘性弱、しまり非常に強。火山砂層。下のホーキ層か 層に対応
- 7 橙色(7.5YR6/6)粘性・しまり強。ハードローム層 層に対応

- P1 黒色(10YR1.7/1)粘性・しまり弱。1～15mmの4・5層ブロックを多く含む
- P2 黒色(10YR1.7/1)粘性・しまり弱。1～5mmの4層ブロックを少し含む
- P3 黒色(10YR1.7/1)粘性・しまり弱。1～5mmの4・5層ブロック含む  
黒色(10YR1.7/1)粘性・しまり弱。1～15mmの4・5層ブロックを多く含む  
遺物包含
- P4 黒色(10YR2/2)粘性・しまりやや弱。
- P5 黒色(10YR1.7/1)粘性・しまり弱。4層土粒を含む

第74図 Tr. 1



## 第5章 確認調査の概要

した。調査の結果、溝状遺構(SD1)を1条確認した。

トレンチの西部は平坦面の東肩付近にあっており、トレンチ東半では谷の埋土を確認した。1・2層が表土・耕作土、3～6層が谷堆積土、7層が基本層序 層に対応する漸移層である。SD1は7層上面で検出した。

SD1はトレンチ西部の平坦面肩付近で検出した。南東-北西方向に延びており、北端・南端ともトレンチ外に続いている。遺構の規模は、幅約30cm、深さ約40cmで、埋土は黒色土であった。埋土中からは弥生土器小片が4点出土しているが、図化可能なものはなかった。埋土に弥生土器が含まれていることや、埋土がSI1埋土に近似することから見て、弥生時代の遺構の可能性が高いと考えられる。

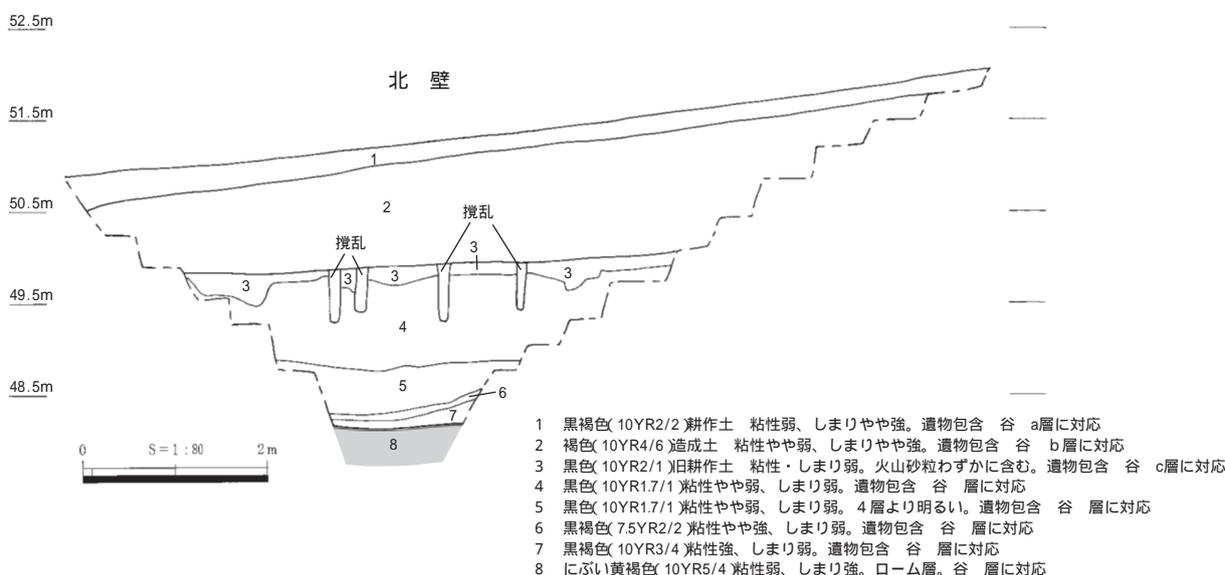
そのほか、耕作土から、弥生土器小片や陶磁器片が出土しているが、図化可能なものはなかった。

Tr.6(第76・77図、表22、PL.27・31)

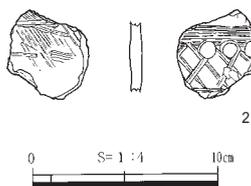
丘陵西斜面の斜面尻に設定した。本トレンチでは遺構は確認していないが、埋没谷が存在することと、谷堆積土が遺物包含層となっていることを確認した。

1層が耕作土で、2層が造成土である。2層は、斜面部の造成の際に、斜面高所側の地山を掘削して生じた土で谷尻を埋めたものと思われる。3層は造成以前の耕作土である。3層上面からはトレンチャーによる攪乱が見られるので、この耕作土は古いものではないと思われる。4～7層が谷堆積土で、いずれの層からも遺物が出土している。谷の底面はローム層であった。

谷堆積土のうち4層からまとめて遺物が出土しており、1点を図化した。2は弥生土器壺の破片で、弥生時代中期のものと考えられる。また、5～7層からも少量の弥生土器片が出土している。



第76図 Tr. 6



第77図 Tr. 6 出土遺物

Tr.9(第78・79図、表20・22、PL.27・31)

丘陵西斜面の斜面尻、Tr.6の20m南に設定した。本トレンチでもTr.6同様、埋没谷が存在することと、谷堆積土が遺物包含層となっていることを確認した。

堆積はTr.6とほぼ同じである。1・2層が耕作土、3層が造成土、4・5層は造成以前の耕作土である。6～9層が谷堆積土で、いずれの層からも遺物が出土している。谷の底面はローム層であった。

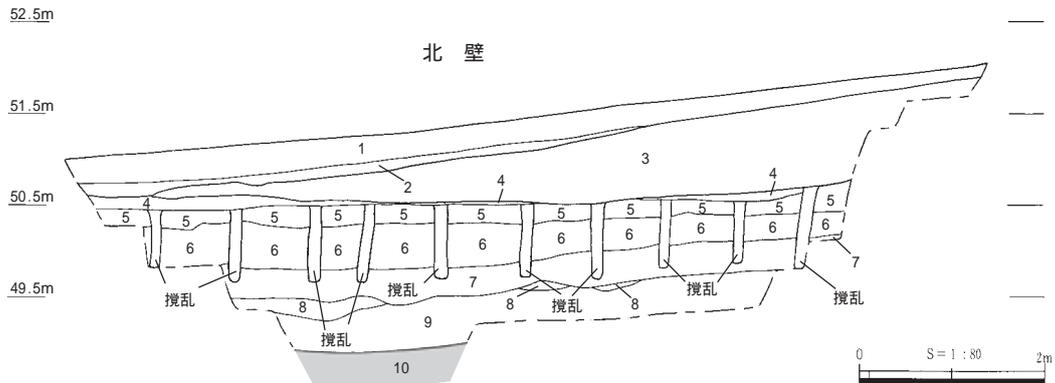
谷堆積土のうち7層が最もまとまって遺物が出土している。そのうち5点を図化した。3～6は弥生土器片で、いずれも弥生時代中期後葉のものと考えられる。F1は釣針と考えられる湾曲した棒状の鉄製品である。6層からも比較的多くの土器が出土している。ほとんどが弥生土器であるが、縄文土器片や黒曜石製石器もわずかに確認している。7は縄文土器の粗製深鉢片で、縄文時代後期～晩期のものと考えられる。また、耕作土や旧耕作土中からも多数の遺物が出土している。8は旧耕作土出土の弥生土器高坏脚部片である。

Tr.11(第80・81図、表22・23、PL.28・31)

丘陵上平坦面の尾根頂部、Tr.1の南約17mの位置に、尾根に直交して設定した。調査の結果、竪穴住居跡(SI1)を1棟確認した。

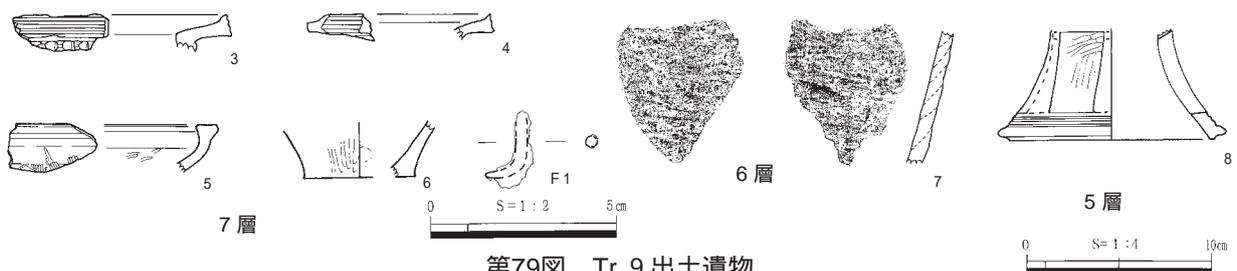
トレンチの大部分は地山まで及び攪乱を受けていた。1・2層は表土・耕作土および攪乱土で、3層以下が火山碎屑物堆積である。SI1は2層上面で検出した。

SI1はトレンチの東端部で検出した。SI1も攪乱を大きく受けており、遺構の残りは非常に悪い。



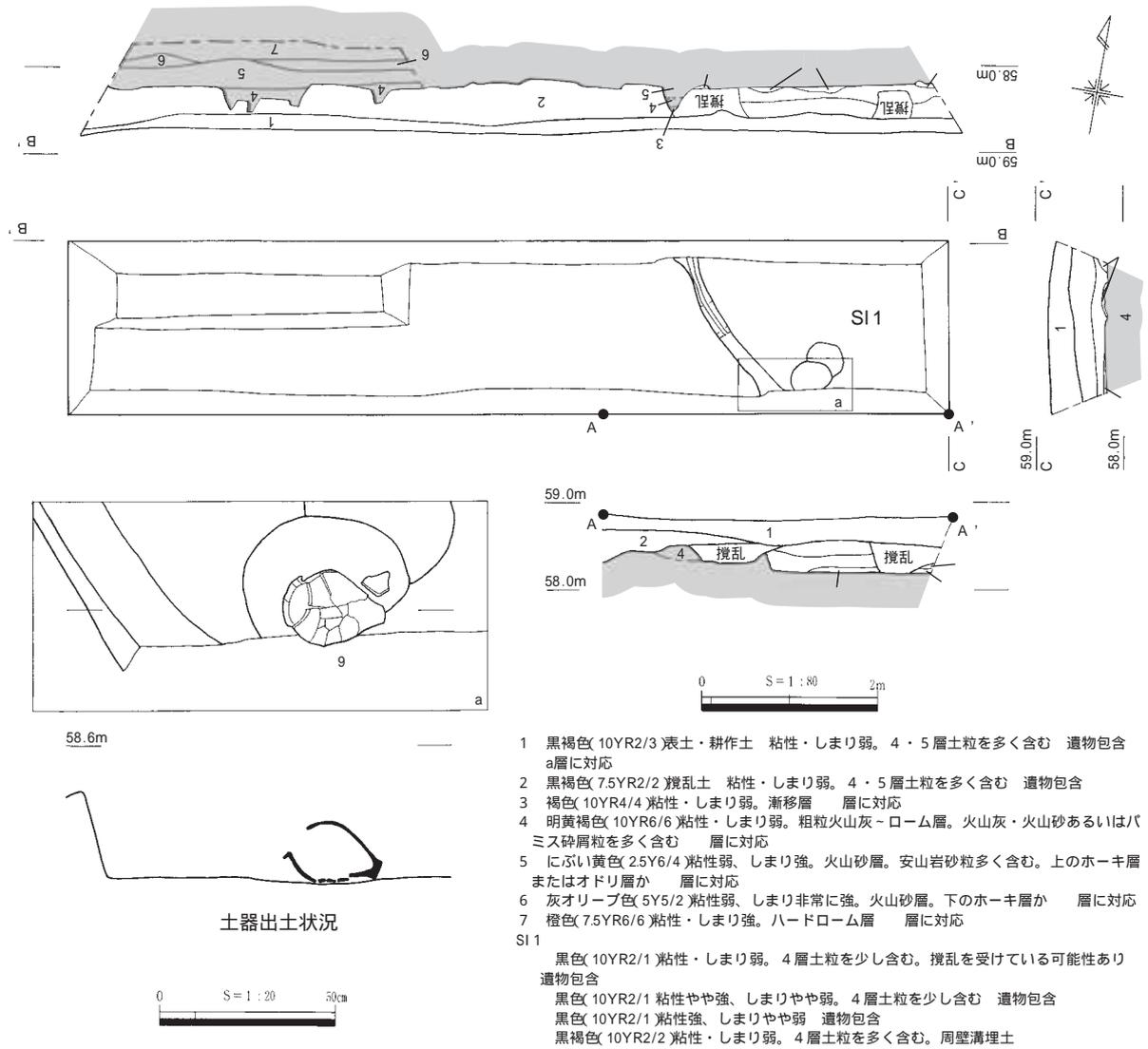
- 1 黒褐色(10YR2/2)耕作土 粘性弱、しまりやや強。2～5mmの黄褐色ロームブロックを多く含む。遺物包含 谷 aに対応
- 2 黒褐色(10YR2/2)耕作土 粘性・しまりやや弱。2～10mmの黄褐色ロームブロックを含む。遺物包含 谷 aに対応
- 3 褐色(10YR4/6)造成土 粘性やや弱、しまりやや強。遺物包含 谷 b層に対応
- 4 黒褐色(10YR2/3)耕作土 粘性やや弱、しまり弱。2～5mmの黄褐色火山砂を少し含む。遺物包含 谷 bに対応
- 5 黒色(10YR2/1)旧耕作土 粘性・しまり弱。2～5mmの黄褐色火山砂をわずかに含む。遺物包含 谷 cに対応
- 6 黒色(10YR1.7/1)粘性やや弱、しまり弱。遺物包含 谷 層に対応
- 7 黒色(10YR1.7/1)粘性やや弱、しまり弱。6層より明るめの色調。遺物包含 谷 層に対応
- 8 黒褐色(7.5YR2/2)粘性やや強、しまり弱 谷 層に対応
- 9 黒色(10YR1.7/1)粘性やや強、しまりやや弱。7層より明るめの色調。遺物包含 谷 層に対応
- 10 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘性弱、しまり強。ローム層 谷 層に対応

第78図 Tr.9

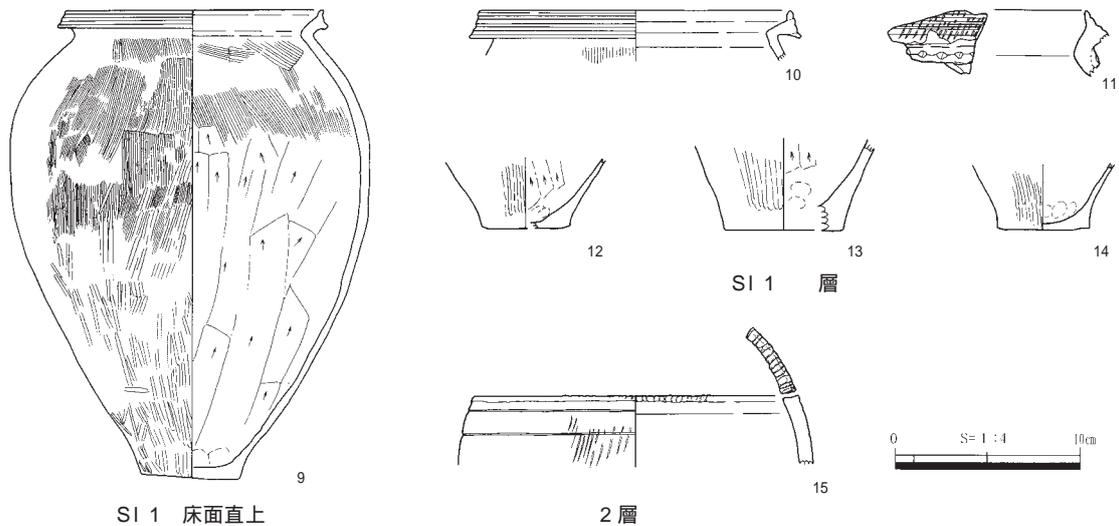


第79図 Tr.9 出土遺物

第5章 確認調査の概要



第80図 Tr.11



第81図 Tr.11出土遺物

竪穴掘り方の一部や、周壁溝、柱穴などの床面施設を検出したことから、竪穴住居跡と認識できた。竪穴掘り方の埋土はTr.1のピットやTr.4のSD1の埋土と近似した黒色土である。周壁溝は検出部分の北半分を掘り下げた。周壁溝の規模は幅約15cm、深さ約5cmで、埋土は竪穴部埋土に類似した黒褐色土である。トレンチ南壁際の周壁溝内側から、重複する2基の柱穴を検出した。半裁は行っていない。柱穴埋土上面からはほぼ完形の弥生土器甕(9)が出土している。また、竪穴部埋土からも多数の弥生土器片が出土しており、そのうち5点を図示した(10~14)。これらの遺物からみてSI1は弥生時代中期後葉のものと考えられる。

このほか、耕作土や攪乱土中からも15などの弥生土器が多数出土している。

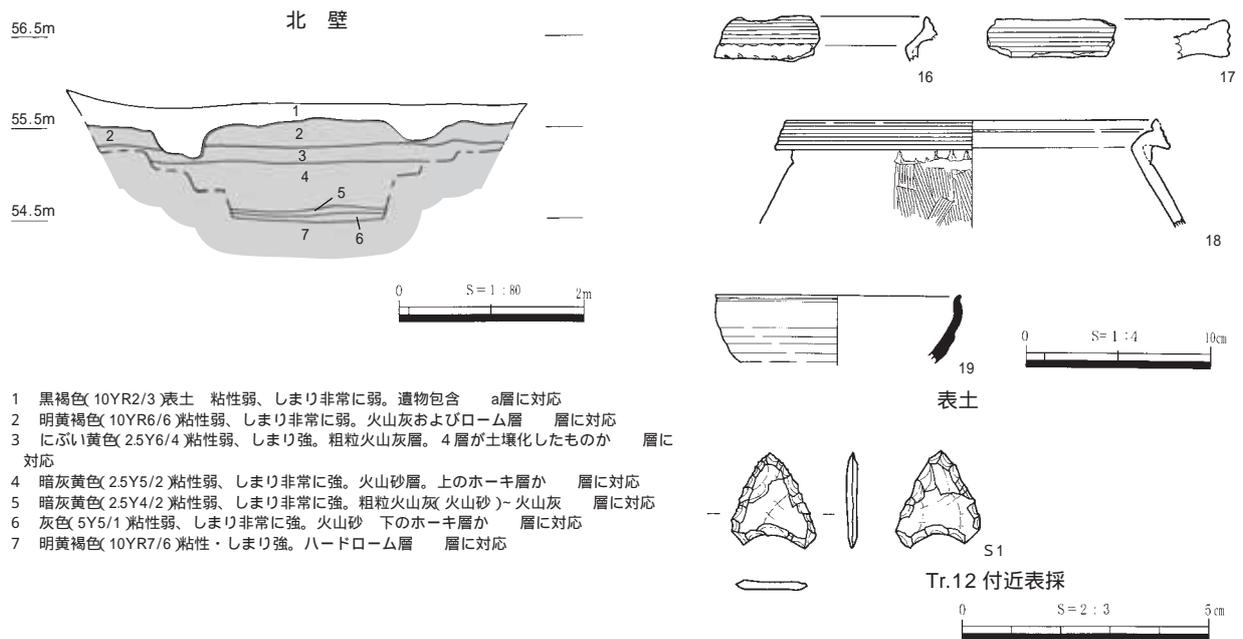
Tr.12(第82図、表19・23、PL.29・31)

丘陵西側平坦面の道路東側における調査区中央付近に設定した。現地表面での標高は約56mである。1層が表土・耕作土で、その下層は削平を受けており、2層以下は基盤層である火山砕屑物堆積層となっていた。2・3層が、基本層序の 層、4・5層が基本層序の 層、6層が基本層序の 層、7層が基本層序の 層にそれぞれ相当する。7層上面は現地表面から深さ約1.3mであった。

遺物包含層は確認できなかったが、表土中から遺物が出土した。16・18は甕、17は壺の口縁部片で、いずれも弥生時代中期後葉のものと考えられる。19は古代の須恵器坏である。S1はトレンチ付近で表採した安山岩製の石鏃である。

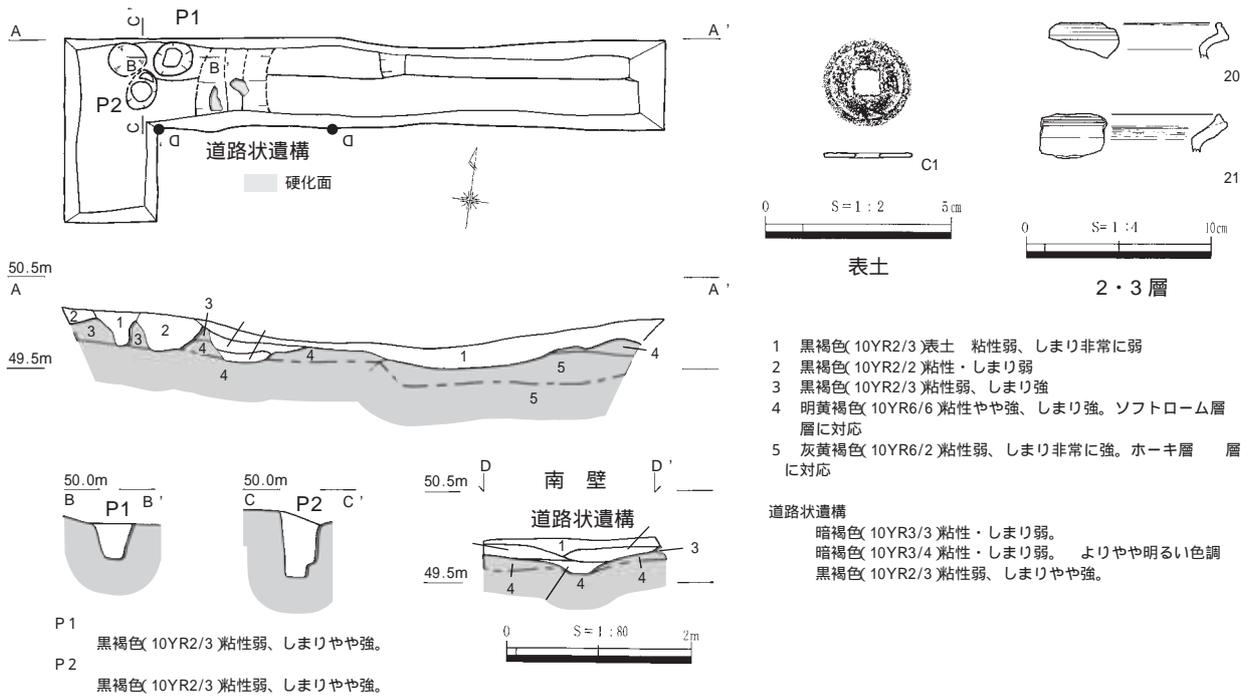
Tr.13(第83図、表21・23、PL.29・31)

丘陵西側平坦面の道路東側における調査区北寄りに設定し、トレンチ内における西寄りの北半分にはサブトレンチを掘削した。現地表面での標高は約50mである。1・2層は表土で、3層は暗褐色土が堆積していた。4層以下は基盤層である火山砕屑物堆積層となり、基本層序と対応する。4層は基本層序の 層、5層は基本層序の 層にそれぞれ相当する。3層上面で道路状遺構を、4層上面で2



第82図 Tr.12

## 第5章 確認調査の概要



つのピット(P1・P2)を検出した。

道路状遺構は、幅約1m、深さ20cm程度の溝状の掘り込みで、その底面が硬化しており、トレンチの南北へ延びている。埋土はクロボク起源の暗褐色および黒褐色土からなる～層が堆積しているが、遺物は含まれていなかった。なお、トレンチ東寄りでも、表土直下を5層まで溝状に掘り込んでおり、埋土は確認できないが、底面が硬化していることから、道路状遺構の可能性はある。

P1は、トレンチの北西隅付近の4層上面で検出した。検出面での直径約40cm、深さ約40cmである。埋土は、クロボク起源の黒褐色土であり、遺物は含まれていなかった。

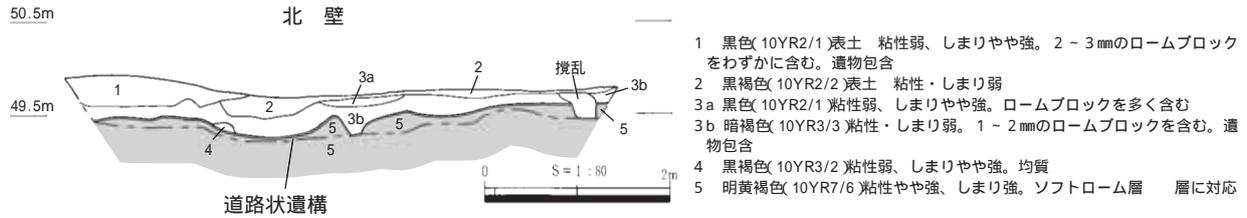
P2は、P1の南西側に接して検出した。検出面での直径約40cm、深さ約70cmである。埋土は、P1と同様、クロボク起源の黒褐色土であり、遺物は含まれていなかった。

遺物は、表土中からいくつか出土している。C1は1層から出土した寛永通宝の「新寛永」で、江戸時代中期以降のものと考えられる。20・21は2層または3層出土の甕の口縁部片で、弥生時代中期後葉と考えられる。

### Tr.14(第84図、PL.29)

丘陵西側平坦面の道路東側における調査区北隅、Tr.13より約4m北側に設定した。現地表面での標高は約50mである。1・2層は表土で、3a・3b層は攪乱土である。3b層直下は、5層のいわゆるソフトローム層となり、その上面で道路状遺構を検出した。道路状遺構の範囲でわずかに4層の黒褐色土が残存しており、埋土の可能性もある。3a層または3b層から弥生土器が出土したが、小片のため図化できなかった。

道路状遺構は、Tr.13の道路状遺構を北側に延長した位置で確認したが、攪乱のため、硬化面はほとんど残存せず、埋土もほとんど残っていなかった。



第84図 Tr.14

Tr.15( 第85図、PL.29 )

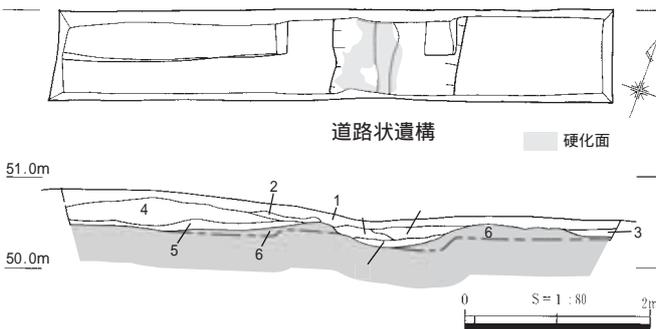
丘陵西側平坦面の道路東側における調査区中央付近、Tr.12より約5m北西側に設定した。現地表面での標高は50.5～51.0m程度で、トレンチの西側の方がやや高い。1層は表土で、2～5層は造成土または攪乱土である。とくに、2・4・5層はトレンチ西側でしか確認できず、造成によって、トレンチ東側の土を移動して盛り上げた土層と推定した。6層は基本層序の 層に相当するいわゆるソフトローム層で、その上面で道路状遺構を検出した。遺物は、表土および4層中から弥生土器や土師質の土器が出土したが、小片のため図化できなかった。

道路状遺構は、トレンチ中央付近で確認した。検出面での幅約1.4m、深さ約20cmの溝状の掘り込みで、掘り込みの底面の西寄りで硬化面を確認した。埋土は、クロボク起源の暗褐色土からなる 層で、遺物は含まれていなかった。

Tr.16・17( 第86・87図、表19・23、PL.30・31 )

丘陵西側平坦面の道路西側における調査地南寄り、平坦面から下市川に落ち込む急斜面の傾斜変換線上に設定した。現地表面での標高は約49～51mであり、東側が高くなる。当初、東側にTr.16、西側にTr.17をそれぞれ別々のトレンチとして設定したが、土層が連続すると考えられたため、両トレンチの間を接続した。

1層は表土で、その下層は、トレンチ東寄りの平坦面で2層の暗褐色土が厚く堆積し、その他の地点では3層の灰黄褐色土が堆積する。2層下は、現地表面からの深さ40～50cmのところ、



- 1 黒褐色(10YR2/3)表土 粘性・しまり弱。遺物包含
- 2 黒褐色(10YR2/3)粘性弱、しまりやや強
- 3 暗褐色(10YR3/3)粘性・しまり弱。攪乱の可能性あり
- 4 黒色(10YR2/1)粘性やや強、しまり弱。クロボク起源。遺物包含
- 5 黒褐色(10YR3/2)粘性弱、しまりやや強。4～6への漸移層
- 6 明黄褐色(10YR6/6)粘性やや弱、しまり弱。ソフトローム層 層に対応

道路状遺構

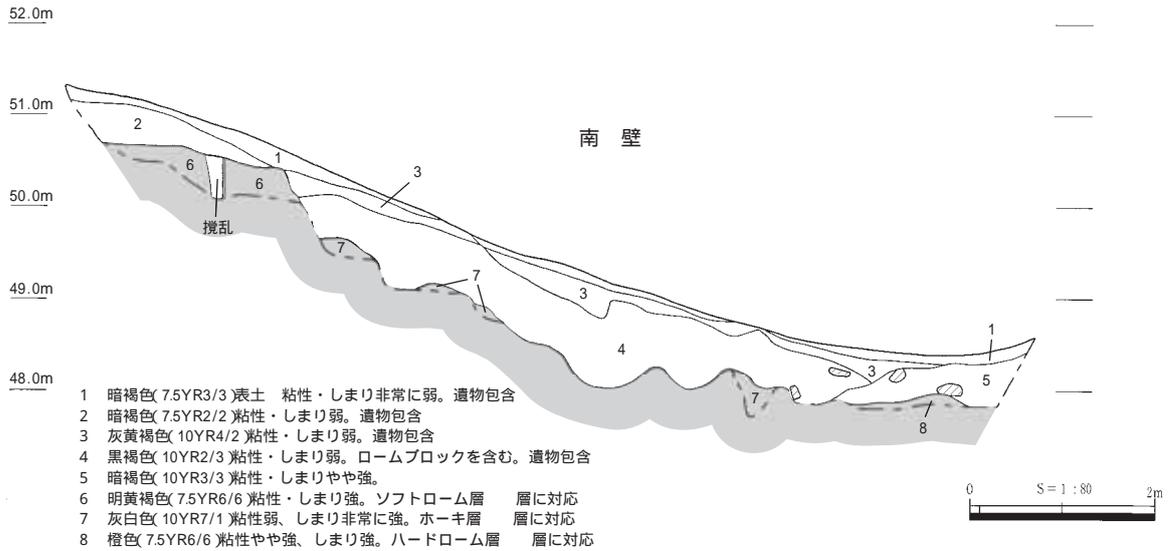
- 暗褐色(10YR3/3)粘性・しまりやや強。
- 暗褐色(10YR3/4)粘性・しまり弱。ロームブロック少し含む
- 暗褐色(10YR3/3)粘性・しまり弱。

第85図 Tr.15

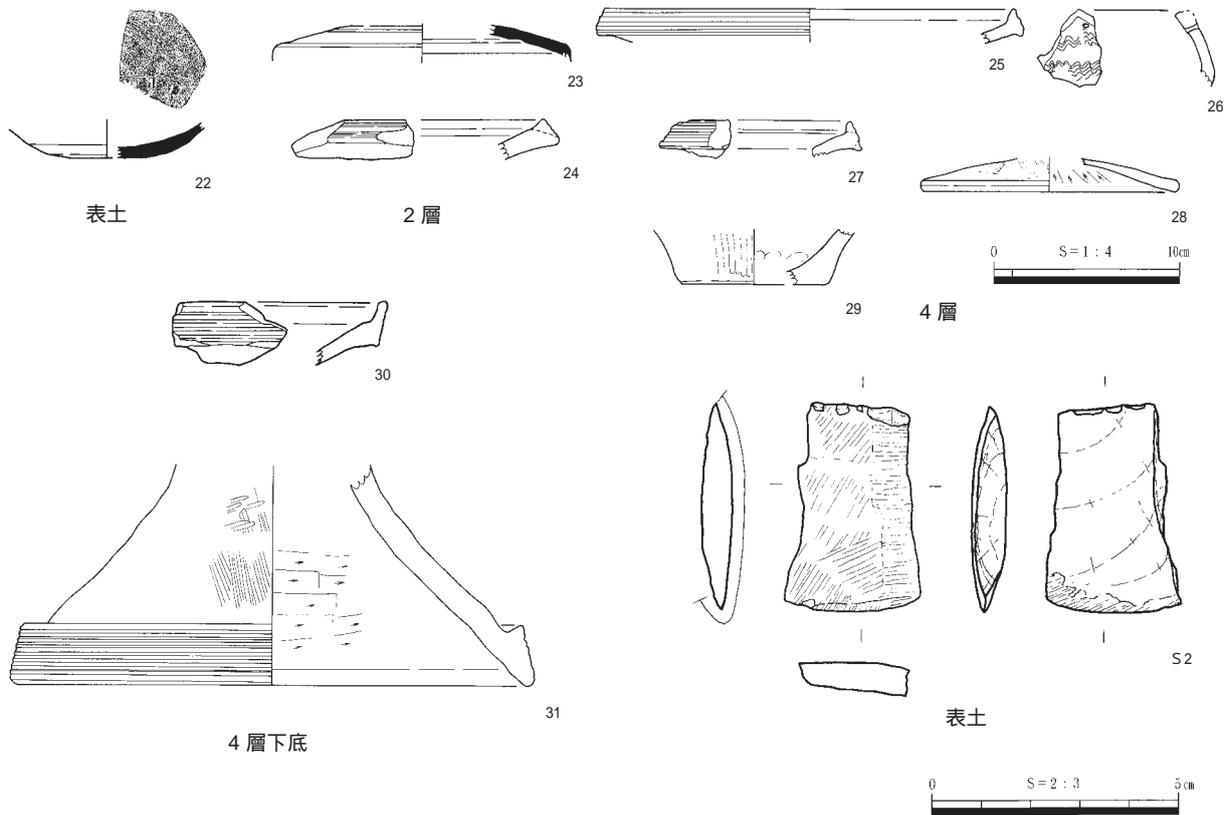
である6層のソフトローム層となるが、3層下は、4層の黒褐色土が厚く堆積し、深いところでは厚さ90cmに及ぶ。4層下の大部分は、基盤層である7層のホーキ火山砂層となるが、トレンチ西端付近では、流土堆積と考えられる5層の暗褐色土が入り、その下層が8層のハードローム層となる。

遺物包含層は、2層および4層であり、4層はとくに下底から遺物が多く出土した。23・24は2層出土遺物で、23は古代の須恵器蓋、24は甕の口縁部片であり、弥生時代中期後葉のものと考えられる。25～29は4層出土遺物であり、25・27は甕口縁部、29は壺または甕の底部、26は無頸壺の口縁部、28は蓋

第5章 確認調査の概要



第86図 Tr.16・17



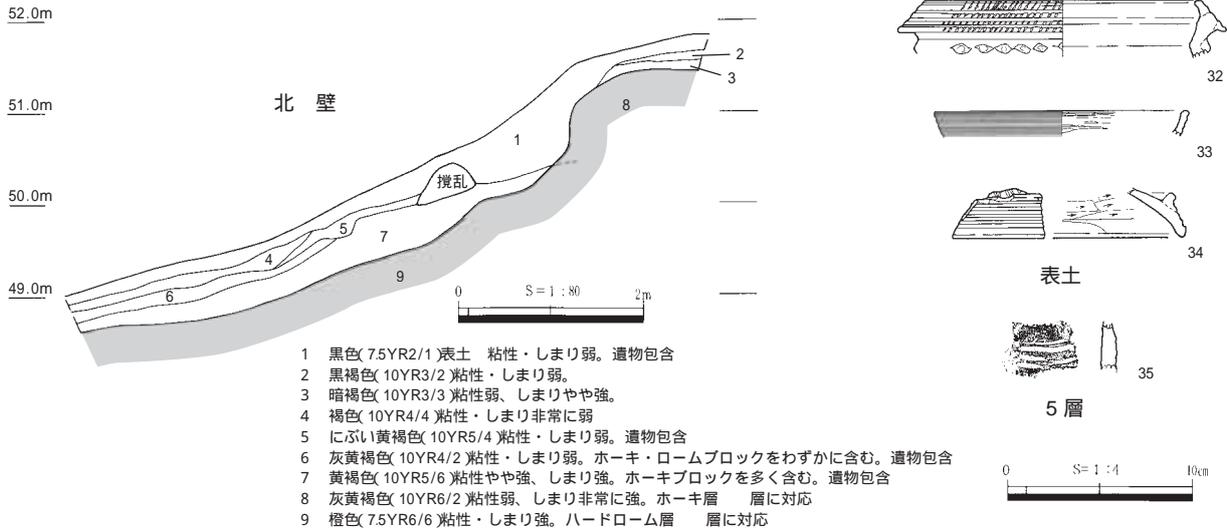
第87図 Tr.16・17出土遺物

であり、いずれも弥生時代中期後葉のものと考えられる。30・31は4層下底から出土した弥生時代後期の器台の口縁部と脚部である。S2は表土出土の安山岩製小型磨製石斧で、大型の磨製石斧の刃部片を再加工したものと考えられる。

Tr.21(第88図、表23、PL.30・31)

丘陵西側平坦面の道路西側、平坦面から下市川に落ち込む急斜面の傾斜変換線上で、Tr.16・17より約5m北側に設定した。現地表面での標高は約49～52mであり、トレンチ東側が高くなる。1層

第7節 殿河内定屋ノ前遺跡の調査



は表土で、平坦面から斜面への落ち際に厚く堆積しており、その下層である2層の黒褐色土と3層の暗褐色土はトレンチ東寄りの平坦面にのみ堆積している。トレンチの西半分には、5～7層の黄褐色系の砂質土が厚く堆積し、現地表面から約60cmの深さで、基盤層である9層のいわゆるハードローム層となる。トレンチ東寄りの平坦面では、8層のホーキ火山砂層が基盤層となっていた。

遺物包含層は5～7層であり、土器が多く含まれていたが、いずれも小片のため、図化できたのは5層出土の縄文時代の深鉢(35)のみである。32～34は表土から出土した土器片で、32は甕の口縁部、33は壺の口縁部、34は器台の脚部であり、いずれも弥生時代中期と考えられる。

その他のトレンチ出土遺物(第89図、表23、PL.31)

その他のトレンチの耕作土や攪乱土からも、弥生土器を中心とする多数の遺物が出土している。そのうち3点を図示した。36はTr.2攪乱土出土の磁器皿で近世後期のもの。37・38はTr.10耕作土出土で、37は弥生土器甕、38は須恵器高坏である。

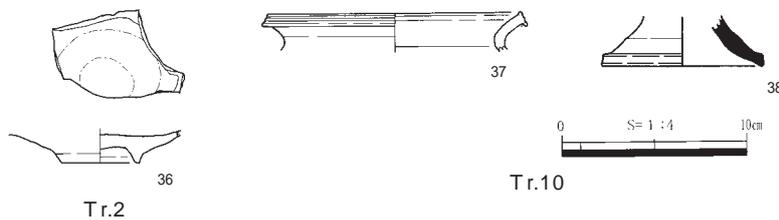


表19 出土石器観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種別	石材	法量			備考	
						最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)		重量(g)
S1	第82図	No.52	Tr.12付近採集	石鏃	安山岩	2.0	1.8	0.2	0.5	
S2	第87図	No.68	Tr.17表土	石斧	安山岩	4.3	2.8	6.0	10.5	磨製石斧の刃部片をさらに小型磨製石斧に再加工したものの

第5章 確認調査の概要

表20 出土鉄製品観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種別	法量				形態上の特徴	備考
					最大長 (cm)	最大径 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
F1	第79図	No.26	Tr.9 7層	鉄製釣針	3.7	-	0.7	-	かえしはない	

表21 出土銅銭観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種別	法量			備考
					最大径 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
C1	第83図	No.56	Tr.13 表土	銅銭	2.4	0.2	2.5	「寛永通宝」(新寛永)

表22 出土土器観察表(1)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類 器種	部位 残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第74図	No.4	Tr.1 P 3 層	弥生土器 壺または甕	底部 1/4 以下	底径: 5.8 器高: 2.5	外面: 胴部ミガキ。底面ナデ 内面: ケズリ後ナデ	密(0.1~0.5mmの石英・長石を多く含む)	良好	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい黄褐色	外面にススが附着する
2	第77図	No.34	Tr.6 4層	弥生土器 壺	胴部 1/8 以下	器高: 4.9	外面: ナデ。沈線、斜格子文、浮文 内面: ハケメ後ミガキ	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黒色	
3	第79図	No.26	Tr.9 7層	弥生土器 甕	口縁部 1/8 以下	器高: 2.0	外面: ナデ。口縁部3条の凹線。頸部貼付突帯 内面: ナデ	密	良好	外面: にぶい橙色 内面: 浅黄褐色	
4	第79図	No.26	Tr.9 7層	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8 以下	器高: 1.1	外面: ナデ。口縁部2条の凹線 内面: ナデ	密	良好	内外面: 黒褐色	
5	第79図	No.32	Tr.9 7層	弥生土器 高坏	口縁部 1/8 以下	器高: 2.7	外面: ナデ、坏部下半ミガキ 内面: ナデ、坏部下半ミガキ	密	良好	外面: 暗褐色 内面: 褐色	
6	第79図	No.26	Tr.9 7層	弥生土器 甕または壺	底部 1/4 以下	底径: 6.0 器高: 3.0	外面: 胴部ミガキ後丁寧なナデ。底面丁寧なナデ 内面: 胴部ケズリ後ナデ。底部ナデ、指頭圧痕	密	良好	外面: 黒色 内面: 浅黄色	
7	第79図	No.30	Tr.9 6層	縄文土器 粗製土器 深鉢	胴部 1/8 以下	器高: 7.1	内外面: ナデ	密(長石、0.1~0.3mmの砂粒を多く含む)	良好	内外面: 灰黄褐色	外面にススが附着する
8	第79図	No.29	Tr.9 5層	弥生土器 高坏	脚部 1/8 以下	脚部径: 11.1 器高: 6.0	外面: タテミガキ後ナメのミガキ。接合部付近1条の沈線。脚端部上方3条の凹線、下方1条の凹線 内面: 脚上位ケズリ後ナデ、下位ナデ	密(径1mm前後の砂粒、4mm大の礫を含む)	良好	内外面: 橙~にぶい赤褐色	推定8方向の長方形透かしを入れる(外面、内面、上下)
9	第81図	No.20・24・25・35・36	Tr.11 SI 1 床面直上	弥生土器 甕	完形	口径: 13.7 胴部最大径: 19.5 底径: 5.4 器高: 25.6	外面: 口縁部ナデ、2条の凹線。胴部上位ハケメ、中位ハケメ後ミガキ、下位ミガキ 内面: 口縁部ナデ。胴部上位ハケメ、中位以下ヘラケズリ(下上)、底部付近ケズリ後ナデ、指頭圧痕	密(0.5~2mm程度の長石・石英を多く含む)	良好	外面: 浅黄色 内面: にぶい黄褐色	外面中位以下および内面下位にススが附着する
10	第81図	No.24	Tr.11 SI 1 層	弥生土器 甕	口縁部 1/4 以下	口径: 16.6 器高: 2.8	外面: 口縁部ナデ、3条の凹線。胴部ハケ目 内面: ナデ	密(0.1~2mm程度の長石をまばらに含む)	良好	内外面: 灰黄色	
11	第81図	No.24	Tr.11 SI 1 層	弥生土器 甕	口縁部 1/8 以下	器高: 3.4	外面: ナデ。口縁部3条の凹線後に連続斜線文。頸部刻目貼付突帯 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
12	第81図	No.36	Tr.11 SI 1 層	弥生土器 甕または壺	底部 1/4 以下	底径: 4.6 器高: 3.8	外面: ナデ、ミガキ。底面ナデ 内面: ケズリ後ナデ	密	良好	外面: 黄褐~黒褐色 内面: にぶい黄~黒褐色	外面にススが附着する
13	第81図	No.24	Tr.11 SI 1 層	弥生土器 甕または壺	底部 1/8 以下	底径: 6.2 器高: 5.0	外面: 体部ミガキ。底部付近ミガキ後ナデ。底面ナデ 内面: ケズリ後ナデ、指押さえ	密	良好	外面: 黄褐~灰褐色 内面: にぶい褐~褐灰色	

第7節 殿河内定屋ノ前遺跡の調査

表23 出土土器観察表(2)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
14	第81図	No.24	Tr.11 SI 1 層	弥生土器 甕または壺	底部 1/2 ~ 3/4	底径: 5.0 器高: 3.6	外面: 体部ミガキ。底部付近ミガキ後ナデ。底面ナデ 内面: ナデ。指押さえ	密	良好	外面: 灰黄 - 黒褐色 内面: 浅黄色 - 黒褐色	内面に薄くススが付着する
15	第81図	No.25	Tr.11 2層	弥生土器 高坏	口縁部 1/4 以下	口径: 17.6 器高: 3.8	外面: 口唇部に刻み目。体部ハケメ、沈線あり 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
16	第82図	No.44	Tr.12 表土・耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/8 以下	器高: 2.5	外面: ナデ。口縁部2条の凹線。頸部貼付突帯 内面: ナデ	密(0.5mm程度の長石・石英を含む)	良好	内外面: 橙色	
17	第82図	No.44	Tr.12 表土・耕作土	弥生土器 壺	口縁 - 胴部 1/4 以下	口径: 20.0 器高: 5.8	外面: 口縁部ナデ。3条の凹線。頸部貼付突帯。胴部ハケ目 内面: 口縁部ナデ。胴部ケズリ後ナデ	密	良好	内外面: 明赤褐色	
18	第82図	No.44	Tr.12 表土・耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/8 以下	器高: 2.1	外面: 口縁部ナデ。3条の凹線 内面: ナデ。上面に4条の凹線	密	良好	内外面: 浅黄色	
19	第82図	No.45	Tr.12 表土・耕作土	須恵器 坏	口縁 - 体部 1/4 以下	口径: 13.3 器高: 3.7	外面: 回転ナデ。口唇部下に1条の沈線 内面: 回転ナデ	密	良好	外面: 褐灰 - 灰黄褐色 内面: 黄褐色	
20	第83図	No.58	Tr.13 2・3層	弥生土器 甕	口縁部 1/8 以下	器高: 1.7	外面: ナデ。口縁部4条の凹線 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
21	第83図	No.49	Tr.13 2・3層	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8 以下	器高: 2.2	外面: ナデ。口縁部2条の凹線 内面: ナデ。ハケ状の線状痕	密	良好	外面: 黒褐色 内面: 灰黄褐色	
22	第87図	No.68	Tr.16・17 表土	須恵器 坏身	底部 1/8 以下	器高: 1.9	外面: 回転ヘラケズリか(自然釉のため不明瞭) 内面: 回転ナデ	密	良好	外面: 灰オリーブ色 内面: 灰黄褐色	外面に自然釉が被る。内面にヘラ記号あり
23	第87図	No.70	Tr.16・17 2層	須恵器 蓋	天井部 1/6	最大径: 16.2 器高: 2.0	外面: 天井部回転ヘラケズリ、残り回転ナデ 内面: 回転ナデ	密	良好	内外面: 灰色	
24	第87図	No.69	Tr.16・17 2層	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8 以下	器高: 2.1	外面: ナデ。口縁部4~5条の凹線 内面: ナデ	密(長石を含む)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
25	第87図	No.77	Tr.16・17 4層	弥生土器 甕	口縁部 1/4 以下	口径: 22.1 器高: 1.8	外面: ナデ。口縁部3条の凹線 内面: ナデ	密	良好	内外面: 浅黄色	
26	第87図	No.77	Tr.16・17 4層	弥生土器 無頸壺	口縁部 1/8 以下	器高: 4.2	外面: ナデ後、櫛描き波状文 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	穿孔あり
27	第87図	No.77	Tr.16・17 4層	弥生土器 壺または甕	口縁部 1/8 以下	器高: 2.0	外面: ナデ。口縁部4条の凹線 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい橙色	
28	第87図	No.77	Tr.16・17 4層	弥生土器 蓋	天井 - 口縁部 1/4 ~ 1/2	口径: 13.6 器高: 1.8	外面: 天井部ハケ目。残りナデ 内面: ケズリ後ナデ	密	良好	外面: 橙色 内面: 明黄褐色	
29	第87図	No.77	Tr.16・17 4層	弥生土器 壺または甕	底部 1/8 以下	底径: 8.6 器高: 3.0	外面: 胴部ミガキ。底面ナデ 内面: ケズリ後ナデ、指頭圧痕	密	良好	外面: 明黄褐 - 灰色 内面: 黄褐色	
30	第87図	No.75	Tr.16・17 4層(下底)	弥生土器 器台	口縁部 1/4 以下	口径: 18.2 器高: 3.5	外面: ナデ。口縁部5条の平行沈線 内面: 口縁部ナデ。体部ナデ一部ハケメ	密	良好	内外面: 浅黄褐色	31と同一個体
31	第87図	No.75	Tr.16・17 4層(下底)	弥生土器 器台	脚部 1/8 以下	脚部径: 27.6 器高: 12.1	外面: 体部中位ナデ後一部ミガキ、下位ハケメ。脚端部7条の平行沈線 内面: 体部ケズリ後一部ナデ。脚端部ナデ	密	良好	外面: にぶい黄橙 - 黄褐色 内面: 浅黄色	30と同一個体
32	第88図	No.80	Tr.21 表土	弥生土器 甕	口縁部 1/8 以下	口径: 16.0 器高: 14.6	外面: 口縁部ナデ後4条の凹線文および連続斜線文。頸部貼付突帯、ナデ後刺突文 内面: ナデ	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
33	第88図	No.76	Tr.21 表土	弥生土器 壺	口縁部 1/4 以下	口径: 13.6 器高: 1.4	外面: ナデ。口縁部4条の凹線文 内面: ミガキ	密	良好	内外面: 明赤褐色	外面に赤色塗彩
34	第88図	No.76	Tr.21 表土	弥生土器 器台	脚部 1/8 以下	器高: 2.7	外面: 脚部下位ミガキ。脚端部ナデ、4条の凹線 内面: ヘラケズリ、ナデ	密(1~3mmの石英・砂粒を含む)	良好	内外面: 浅黄色	
35	第88図	No.79	Tr.21 5層	縄文土器 深鉢	胴部 1/8 以下	器高: 2.9	外面: ナデ。沈線文 内面: ハケメ後ナデ	密	良好	外面: 明褐色 内面: 明黄褐色	
36	第89図	No.3	Tr.2 攪乱土	磁器 皿	底部 1/2 ~ 3/4	底径: 4.2 器高: 1.8	外面: 施釉。高台内側と周辺は露胎。露胎部分は回転ナデ 内面: 施釉。蛇ノ目状に釉剥ぎ	密	良好	釉: 明緑灰色 胎土: 灰白色	外面底部に砂目痕
37	第89図	No.15	Tr.10 耕作土	弥生土器 甕	口縁部 1/4 以下	口径: 13.7 器高: 2.1	外面: ナデ。口縁部2条の凹線 内面: ナデ	密	良好	内外面: 暗褐色	内外面にススが付着する
38	第89図	No.15	Tr.10 耕作土	須恵器 高坏	口縁部 1/4 以下	口径: 8.5 器高: 2.7	内外面: 回転ナデ	密(径1mm程度の砂粒を少量含む)	良好	内外面: 灰色	